

GRIPS Discussion Paper 19-37

「四国八十八箇所霊場と遍路道」を事例とした
持続可能な文化財の保護に関する考察
—文化と観光の好循環を実現する整備の方向性—

By

高橋 朋也

March 2020



GRIPS

NATIONAL GRADUATE INSTITUTE
FOR POLICY STUDIES

National Graduate Institute for Policy Studies
7-22-1 Roppongi, Minato-ku,
Tokyo, Japan 106-8677

「四国八十八箇所霊場と遍路道」を事例とした 持続可能な文化財の保護に関する考察 —文化と観光の好循環を実現する整備の方向性—

高橋 朋也

政策研究大学院大学 文化政策コース（〒106-8677 東京都港区六本木 7-22-1）
E-mail : mjc19602@grips.ac.jp

本研究では、文化と観光の好循環の観点から、「四国八十八箇所霊場と遍路道」の持続可能な保護につながる文化財の整備の方向性を考察した。

人口減少社会に対応できる「持続可能な文化財の保護」を実現するためには、文化財の観光活用などにより交流人口を拡大させるとともに、保護活動に必要な人材や財源を地域内外から確保する視点で文化財の保護を検討する必要がある。そのためには、文化財の所有者や管理者の抱える課題を明らかにし、その課題に対応する文化財の整備の方向性を検討する必要がある。さらに、交流人口である巡礼者の行動や意識などの傾向を把握し、文化と観光の好循環による持続可能な整備の方向性を検討する必要がある。このことから、本研究では、本資産の保存・活用に関する課題や巡礼者の傾向を明らかにするためにアンケート調査などの現地調査を行った。また、統計解析により巡礼者の傾向を詳細に分析し、「交流人口の拡大につながる整備」や「地域内外からのボランティアや寄付の確保につながる整備」の方向性を明らかにした。

Key Words : 文化財保護、観光活用、持続可能性、四国八十八箇所霊場、遍路道

第1章 序章

第1節 研究の背景

(1) 文化財の保護

文化財の保護は、文化財の「保存」と「活用」のいずれかに偏ることなく、双方が相互に調和的な補完関係を持続的に保つことが重要である¹。

ところが、近年では文化財のもつ地域資源としての価値に着目し、観光やまちづくりなどの幅広い分野での活用に期待が高まっている。とくに、「明日の日本を支える観光ビジョン」（明日の日本を支える観光ビジョン構想会議 2016）において、『文化財』を、『保存優先』から観光客目線での『理解促進』、そして『活用』へと明記されるなど、文化財の保護を取り巻く政府の方針は、保存から活用へ、特に観光活用へとシフトしている。

一方、人口減少・過疎高齢化の影響により、文化財の総合的な保存・活用を推進したい地方公共団体においては、文化財の保護を担う人材の確保や地域社会の持続性などが課題となっている。また、少子高齢化の進行が著しい地方公共団体においては、民生費の増大に伴う文化財関連予算の逼迫が懸念されることから、文化財の所有者等は、行政からの補助金以外の財源を

柔軟かつ安定的に確保することが課題となっている。以上のことから、今後の社会情勢に柔軟に対応できる「持続可能な文化財の保護」を実現するためには、文化財の観光活用などによる交流人口の拡大のみならず、地域内外から保護活動を担うボランティアや公的資金に依存しない自主財源を確保するなど、必要な人材や財源の確保を図る視点から文化財の総合的な保存・活用を推進する必要がある。

(2) 四国八十八箇所霊場と遍路道

研究対象である「四国八十八箇所霊場と遍路道」は、四国4県に広がる文化資産であり、2018年に約5.5万人²が訪れるなど、観光活用などによる地域活性化が期待されている。また、文化庁による「日本遺産」への認定や4県58市町村等が連携した世界遺産登録に向けた取組など、文化財を総合的に保存・活用することにより地域活性化を図っているところである。

一方、本資産がある四国地方では人口減少・過疎高齢化が全国に先行して進行しており、文化財の保護を担う人材の不足など、本資産の保護に深刻な影響を及ぼす可能性がある。そのため、本資産を事例として、人口減少・過疎高齢化などの今後の社会情勢を見据えた持続可能な保護体制を検討することが求められる。

第2節 研究の目的及び方法

(1) 研究の目的

四国八十八箇所霊場（以下「寺院」という）と遍路道の持続可能な保護を図るためには、本資産の保護活動に関する課題を明らかにし、その課題に対応する本資産の整備の方向性を検討する必要がある。さらに、文化と観光の好循環を実現する観点から整備の方向性を検討するためには、交流人口である巡礼者の実態を把握する必要がある。

以上のことから、本研究では、保護活動に関する課題や巡礼者の実態を現地調査により明らかにする。また、得られた知見から「交流人口の拡大につながる整備」や「地域内外からのボランティアや寄付の確保につながる整備」について考察し、文化と観光の好循環を実現する整備の方向性を明らかにする。

(2) 研究の方法

はじめに、寺院及び遍路道の保護活動に関する課題を明らかにするため、寺院の所有者である住職や遍路道の保護に関わる地域住民等のボランティア団体（以下「地域住民団体」という）の長に対するヒアリング調査を実施した。調査対象は「主体的な保護活動に取り組む寺院及び遍路道関係者」に絞り込み、本関係者の主体的な活動のみでは解決できない課題の抽出に焦点を置いた。また、調査内容は、本関係者の主体的な整備を促進する上での課題を明らかにするため、整備の取組状況や課題に加えて、課題に対する本関係者の意向や課題解決に必要となる行政の支援などについて聞き取りを行い、本関係者が抱える課題と課題解決に向けた支援の方向性を明らかにした。

続けて、巡礼者の実態を明らかにするため、寺院を訪れた巡礼者に対する目視調査及びアンケート調査を実施した。調査にあたり、交流人口である巡礼者と受入側の寺院及び遍路道関係者の双方の実態を明らかにした上で整備の方向性を考察するため、調査場所をヒアリング調査の対象寺院から選定した。また、調査内容は、後述する先行研究を参考として、巡礼者の属性を把握するための属性項目と四国遍路に対する意識を把握するための意識項目を設定した。さらに、調査結果は、単純集計により巡礼者の全体的な傾向を把握するとともに、相関分析やクロス集計に対する有意差検定などの統計解析により、統計上有意となる巡礼者の傾向を「交流人口の拡大」及び「保護活動のための人材や財源の確保」の観点から明らかにした。

最後に、これまでの調査で得られた知見から、寺院及び遍路道関係者の抱える課題と巡礼者の傾向に整合した整備の方向性について考察し、主体的な整備を促進するための政策の方向性を整理した。

第3節 先行研究

文化財等の持続可能な保護に関する研究は、地域や文化財等の特性を考慮する必要があることから、そのほとんどが事例研究であり、本資産を事例とした文化財保護の研究はほとんど行われていない。このことから、次の研究を参考として本研究を進めた。

まず、文化財の価値を評価するという観点から文化と観光の好循環の可能性を明らかにする垣内（2011）が参考となる。垣内は、アンケート調査に基づいて文化財の価値を評価し、活用の可能性などの考察を行っていることから、本研究ではアンケート調査の調査項目や集計結果の分析方法などを参考とした。

次に、「史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書」（文化庁2015）では、史跡等の保存と活用の間にある矛盾を調和的に解決し、両者が相乗効果を生み出せるようにするための手法を「整備」と定義し、保存を目的とした整備（以下「保存整備」という）と活用を目的とした整備（以下「活用整備」という）を調和させることが重要であると指摘している。本研究ではこの概念を参考として調査及び考察を行った。

さらに、社会学的調査により巡礼者の変容を明らかにした長田・関・坂田（2003）、佐藤（2004）、竹川（2017）は、アンケート調査に基づいて巡礼者の属性情報や巡礼の目的などを明らかにしており、本研究では、これらの項目に加えて「再訪の意向があるか」や「ボランティアや寄付の意向があるか」などの意識についても調査し、巡礼者の意向に関する詳細な分析を行った。

第4節 本研究における定義

本研究では、鈴木（2007）の指摘を参考として、巡礼を旅行の一形式として捉え、四国遍路に関する旅行を「巡礼」として定義する。（図1）例えば、四国遍路に関する旅行の間に観光などを行ったとしても、旅行の間は巡礼として取り扱うこととする。

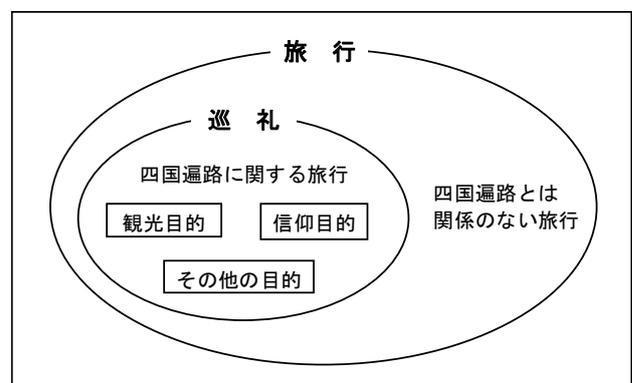


図1 旅行と巡礼の概念図（筆者作成）

第2章 四国八十八箇所霊場と遍路道の動向

第1節 四国八十八箇所霊場と遍路道の概要

四国八十八箇所霊場と遍路道は、四国4県に広がる長距離の回遊型巡礼路のことであり、徳島県の第1番札所霊山寺から香川県の第88番札所大窪寺までの88ヶ寺とそれを結ぶ環状の遍路道により構成されている。遍路道の総延長は1,400kmとされ、地域の生活道を遍路道として使用するところが多く、過去に造立された道標や丁石などが残っている。また、山間部には当時の雰囲気を残す古道も残されており、地域住民団体等により整備されている。

本資産を巡礼することを四国遍路という。星野・浅川(2011)によれば、四国遍路は仏教信仰の有無に関わらず多様な目的をもつ巡礼者を受け入れる「開放型」の巡礼であり、巡礼の期間や寺院の巡礼順序などを厳格に規定しない非定型的な巡礼であると指摘する。また、歴史的変遷の中で様々な形態の巡礼者を受け入れてきた多様性と寛容性に文化的特徴があり、時代とともに様相を変容させていると指摘している。

第2節 時代に応じた四国遍路の変容

(1) 歴史的変遷

四国遍路は、平安時代(815年)に空海により開創されたと伝えられる³。「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」(4県58市町村2016)によれば、四国の山岳や海辺を回遊して修行する「四国辺地」の代表例が空海の修行であり、四国遍路の原型であるとされる。

また、空海の死後、鎌倉時代には弘法大師の遺跡を巡る「四国辺路」が巡礼として成立し、修行僧により弘法大師信仰に基づく巡礼が行われた。さらに、熊野信仰や白山信仰、阿弥陀信仰、観音信仰などの様々な宗教宗派を包含する「四国遍路」が巡礼として確立され、室町時代末期から江戸時代初期にかけて八十八ヶ所の札所霊場が成立したとされる。

さらに、江戸時代中期の元禄期には、真念による四国遍路の案内記「四国辺路道指南」などにより四国遍路の大衆化が促進され、修行僧のみの巡礼から一般庶民を含む巡礼へと変容することとなる。明治時代には、廃仏毀釈・神仏分離令により四国遍路は衰退の危機に瀕するが、約237基の道標を造立した中務茂兵衛などによる保護活動により、地域社会とともに寺院や遍路道などの遍路文化が保護されることとなる。

戦後の1950年代以降には、モータリゼーションの影響により、団体バスなどによるマスツーリズムや自家用車による巡礼へと変遷するとともに、巡礼者数は増加することとなったが、急激な社会整備の影響により遍路道であった古道が徐々に失われていった。

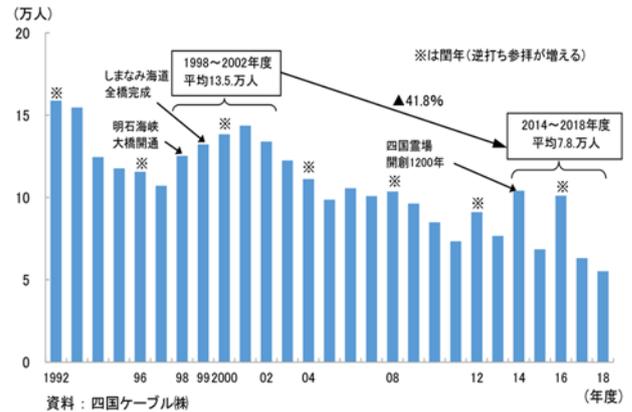


図2 巡礼者数の推移(太龍寺ロープウェイの輸送実人員)

(出典:「新時代における遍路受入態勢のあり方」p.5
(四国アライアンス地域経済研究分科会2019))

(2) 巡礼者の意識の変容

四国遍路は多様性や寛容性を特徴とすることから、歴史的変遷の中で巡礼者の意識が変容していることが長田ら(2003)、佐藤(2004)、竹川(2017)による社会学的調査により明らかにされている。これらによれば、「信仰」や「先祖・死者の供養」などの仏教信仰に基づく目的をもつ巡礼者が多い一方で、一般的な寺社参拝に基づく「家内安全」及び「祈願(大願成就)」や参拝以外の「観光」など、多様な目的をもつ巡礼者も少なからず存在することが明らかにされている。このことから、現代の巡礼者は、弘法大師信仰を含む仏教信仰に基づく巡礼のみならず、多様な目的により巡礼を行っている可能性が示唆される。

(3) 巡礼者数の推移

四国遍路には巡礼の期間や寺院を巡礼する順番などに厳格な規定がないことから、正確な巡礼者数を把握することは困難である。そのため、近似値として、第21番札所太龍寺に登るための太龍寺ロープウェイの輸送実人員が一般的に使用されている。四国経済連合会・四国アライアンス地域経済研究分科会の調査によれば、太龍寺ロープウェイの輸送実人員は、1998年の明石海峡大橋の開通や1999年のしまなみ海道的全橋完成を受けて増加傾向となり、1998年から2002年までの平均人数は13.5万人にまで達したが、その後、右肩下がりとなり、2014年から2018年までの平均人数は7.8万人となっており、巡礼者数は減少傾向にあると考えられる。(図2)

この減少傾向の要因として考えられるのは、巡礼の個人旅行化である。本分科会の調査によれば、太龍寺ロープウェイの輸送実人員の内訳のうち、団体旅行は2001年のピーク時における6.7万人(46.5%)から2014年から4年間の平均人数である2.3万人(29.1%)まで減少している。また、本分科会によるアンケート調査に協力した44ヶ寺のうち、36ヶ寺(81.8%)は団体バスが大幅に減少していると回答している。

以上のことから、現代の巡礼者はバスツアーなどによる団体旅行から個人旅行へと巡礼形態が変容している可能性が示唆される。

第3節 保護措置と世界遺産登録の推進

(1) 保護措置に関する歴史的変遷

寺院の保護は、1950年に制定された文化財保護法を契機として大きく進められたと森(2005)は指摘する。森によれば、文化財保護委員会による「文化財特別総合調査」の実施を契機として、従前の古社寺保存法(明治30年6月10日法律第49号)や国宝保存法(昭和4年法律第17号)による寺院及び寺院所蔵品の保護措置がさらに拡充され、国及び自治体による積極的な保護措置が講じられたとされる。

また、遍路道の保護に関して、1975年より実施された『歴史の道』整備事業により全国の街道が調査・整備されたこと、当時の環境庁及び建設省による長距離自然歩道「四国のみち」の整備が進められたことなどが契機となり、「へんろみち保存協力会」等の地域住民団体による古道の復元活動が活発となったと指摘する。さらに、本活動が現在の遍路道の保護活動につながっていると指摘している。

(2) 世界遺産登録の推進

国の政策に呼応して、関係自治体が寺院及び遍路道の保護措置に個別に取り組む一方で、世界遺産登録の推進を契機に寺院及び遍路道を一体の文化資産として保護する方針へと徐々に変遷することとなる。

新林(2016)によれば、1990年頃から寺院住職を含む民間レベルでの世界遺産登録推進運動が実施され、2000年には地域住民団体「四国へんろ道文化世界遺産化の会」が発足するなど、世界遺産登録に対する機運が徐々に高まったとされる。

一方で、2006年に文化庁が世界遺産登録の申請候補物件を公募したことから、四国4県は「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録を共同提案し、さらに翌年、四国4県と関係市町村(現57市町村)が共同で再提案したが、世界遺産暫定一覧表記載文化資産には至らなかった。ただし、文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会から世界遺産暫定一覧表候補の文化資産の中で最も高い評価である「カテゴリーIa」として評価され、四国遍路が1,400kmに及ぶ壮大な回遊型巡礼路であること、地域社会により文化が支えられてきたことに触れ、「生きている伝統」を表す資産として価値が高いと評価された⁴。一方で、「構成資産の大半が文化財として保護されておらず、資産の範囲も広域に及ぶことから、文化財の指定・選定を含めた保護措置の改善・充実に向けた取組等が不可欠である」との課題が指摘されるなど、四国全体としての保護措置のあり方などについての検討が求められることとなった。

表1 国指定文化財としての保護状況(2019.10.16時点)

	全 体	国指定可能区域	指定区域	指定予定区域
徳島県 史跡「阿波遍路道」				
遍 路 道	288.7 km	73.4 km	15.93 km	57.47 km
札 所 寺 院	24 ヶ寺	14 ヶ寺	4 ヶ寺	10 ヶ寺
香川県 史跡「讃岐遍路道」				
遍 路 道	193.5 km	25.3 km	3.1 km	22.2 km
札 所 寺 院	22 ヶ寺	22 ヶ寺	1 ヶ寺	21 ヶ寺
高知県 史跡「土佐遍路道」				
遍 路 道	429.6 km	27.8 km	1.6 km	26.2 km
札 所 寺 院	16 ヶ寺	10 ヶ寺	0 ヶ寺	10 ヶ寺
愛媛県 史跡「伊予遍路道」				
遍 路 道	573.5 km	88.9 km	8.72 km	80.18 km
札 所 寺 院	26 ヶ寺	26 ヶ寺	3 ヶ寺	23 ヶ寺
愛媛県 その他				
史跡「八幡浜街道」	1.603 km	1.603 km	1.603 km	-
名勝「星ヶ森」	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	-

(出典：世界遺産登録推進協議会の提供資料から筆者作成)

この指摘を受けて、関係自治体は、教育機関、寺院関係者、経済団体、NPO等を構成員に含め、『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会(以下「世界遺産登録推進協議会」という)を2010年に設立し、四国遍路の専門的研究等を行う「普遍的価値の証明」部会、保護措置の手法等を検討する「資産の保護措置」部会、四国遍路を活用したまちづくり等に取り組む「受入態勢の整備」部会、四国遍路や世界遺産登録推進活動などの普及啓発を行う「普及啓発」部会により、官民一体となって本資産の総合的な保存・活用を推進することとなった。また、本協議会設立以降、関係者は世界遺産登録の実現を基本方針として、本資産の保護措置を講じることとしている。

(3) 文化財としての保護状況

関係自治体は、世界遺産登録推進協議会における検討などをとりまとめた「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」(四国4県58市町村2016)に基づいて構成資産の保護措置を進めている。

具体的な措置として、寺院は、遍路文化全体の核となる「場」としての価値などを有することから「史跡」または「名勝」としての保護措置を進めている。また、遍路道は、山間部の古道の景観を残す箇所は歴史的な景観を保護するために「史跡」としての保護措置を進めるとともに、平野部等の遍路道は地域文化などを残す伝統的な街並みとともに共存してきたことから「重要文化的景観」または「重要伝統的建造物群保存地区」としての保護措置を検討している。その他、構成資産の緩衝地帯などについて、文化財保護法以外の景観法等による保護措置を検討している。

一方、国指定史跡等による保護措置を実現するためには膨大な量の文献調査や測量調査等を行う必要があることから、全ての構成資産の保護には至っていない。(表1)そのため、関係自治体は文化財調査等を継続するとともに、史跡指定以外の保護措置の検討を進める必要がある。

表2 世界遺産登録に向けた保護活動の主体の役割

		史跡等指定文化財	未指定文化財
寺院	関係自治体	文化財の管理団体としての 共通管理 (他の寺院でも共通に必要な 標識、説明板、境界標、囲い その他の施設等) (文化財保護法第115条1項)	文化財指定に必要な 文化財調査等
	寺院関係者	境内の維持管理や寺院本堂を 含む諸堂の修理などの幅広い 通常管理	左記に加えて、共通管理等の 幅広い内容に関する主体的な 整備
遍路道	関係自治体	道路管理者としての維持管理 及び文化財の管理団体として の管理 (道標や丁石等が所在する道路 や隣接地を含む一定の範囲内)	道路管理者としての維持管理 及び文化財指定に必要な 文化財調査等
	遍路道関係者	古道の歴史的景観等の保全に 向けた整備 (関係自治体との協働等)	文化財の管理団体としての 管理等の幅広い内容に関する 主体的な整備

(出典：「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」
(四国4県58市町村2016) から筆者作成)

第3章 寺院及び遍路道関係者の抱える課題と支援の方向性

第1節 世界遺産登録に向けた各主体の役割

世界遺産登録を見据えた保護活動を推進するため、「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」(四国4県58市町村2016)において保護活動に関わる主体の役割を整理している。(表2)

この整理では、関係自治体と比べて、遍路文化の担い手である寺院及び遍路道関係者の役割は大きく、とくに未指定文化財に関しては幅広い内容の整備が求められている。このことから、寺院及び遍路道関係者は文化財の整備に関する様々な課題を抱えていることが懸念されるため、保護活動の現場で生じている課題を明らかにする必要がある。

第2節 ヒアリング調査

文化財の整備に関する課題を明らかにし、課題に対する支援の方向性を考察するため、保護活動の担い手である寺院及び遍路道関係者を対象としたヒアリング調査を実施した。

(1) 調査概要

本調査では、最長の国指定史跡の遍路道が現存する徳島県阿南市を調査地域として、本遍路道に接続する「第22番札所平等寺」、宿坊や温泉を有する「第23番札所薬王寺」の2ヶ寺の住職と、本遍路道の整備に主体的に取り組む「加茂谷へんろ道の会」、徳島県下の遍路道の清掃活動等に主体的に取り組む「NPO法人徳島共生塾一步会」の2団体の会長を対象に調査を実施した。また、調査地域外ではあるが、最大収容人数350人の大規模な宿坊と温泉を有する「第6番札所安楽寺」の住職からも参考として聞き取りを行った。

(2) 調査結果

本調査により、寺院及び遍路道関係者は交流人口の拡大に肯定的であること、保存整備と活用整備の両面を推進していること、整備に関する課題の傾向が異なることが明らかとなった。(表3)

表3 ヒアリング調査の結果

	寺院関係者	遍路道関係者
交流人口に対する意識	交流人口の拡大に肯定的 ・新たな文化や信仰が芽生える ・交流人口の受入整備が必要	交流人口の拡大に肯定的 ・遍路道保護活動の励みになる ・トイレ・キャンプサイト等の整備が必要
整備の取組状況	保存整備 ・寺院及び保有資産の維持管理や修繕 ・数年計画で檀家等から維持管理や修繕に関する寄付を確保 ・檀家との持続的で良好な関係づくり(貸切バスによる四国遍路ツアーなど) 活用整備 ・QRコードを活用した解説の整備 ・地域クリエイターと連携したホームページの改修 ・英語の案内パンフレットの作成 ・巡礼者のためのFree Wi-Fi整備 ・地域の遍路宿の減少に対応するための民泊の宿坊を開設・運営 ・寺院での仏教体験(お勤め等)や地域住民等との交流の機会を創出 ・地域住民等による「お接待」ができる空間づくり(テント設置)	保存整備 ・遍路道の清掃や保全活動(定期整備と災害後の緊急整備) ・「ふるさと納税」を活用したクラウドファンディングによる財源の確保 活用整備 ・遍路道のガイド活動(企業研修や小学生の校外学習等) ・遍路道周辺の若杉山辰砂採掘遺跡のガイド活動(遍路道も含めた地域文化の発信) ・ウォーキングイベント等による遍路文化の魅力発信 ・パンフレット(英語版も含む)の作成による広報活動 ・子供たちに自然や文化を感じてもらうための小学校出前講座
整備の課題	人材不足 ア)宿坊経営に必要な人材の確保 イ)遍路道保護団体の高齢化等に対応するための連携体制の構築(保護団体と寺院等との連携) 財源不足 ウ)持続可能な維持管理予算の確保 エ)災害等の緊急修繕に対応できる財源の確保 技術的課題 オ)情報通信技術等を活用した整備	人材不足 ア)会員の高齢化や後継者問題に対応できる多様な人材の確保 イ)地域住民の高齢化や減少等に対応できる地域の若い世代の誘引 技術的課題 ウ)情報通信技術等を活用した整備や魅力発信の整備の充実
課題に対する関係者の意向	人材不足 ア)地域内外からの人材の確保 イ)連携促進のための行政による支援が必要 財源不足 交流人口等から公的資金に依存しない自主財源(寄付等)の確保 技術的課題 技術のノウハウ等を持つ主体との連携に関する行政の支援が必要(自主財源の範囲内での整備を検討)	人材不足 ア)地域内外からの人材の確保、他の保護活動団体との連携に行政主催のイベント等の機会が必要 イ)地域の小学校への出前講座や、親子が参加するウォーキングワークショップ(散策・整備体験)により遍路道の価値や魅力を発信 技術的課題 技術のノウハウ等を持つ主体との連携に関する行政の支援が必要(自主財源の範囲内での整備を検討)
行政に期待する支援の方向性	・寺院等の保護措置に必要な文化財調査等の支援 ・持続可能な予算規模による長期的な支援体制の構築	・地域住民団体と連携した遍路道保護活動の検討 ・地域住民団体の設立など、体制づくりの支援

表 4 保護活動に関する課題と支援の方向性

	寺院関係者	遍路道関係者
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> 宿坊経営等の寺院以外の施設に関する人材が不足 寺院関係者と遍路道関係者とのネットワークの整備が不十分 持続可能な自主財源（寄付等）の地域内外からの確保が必要 情報通信技術等の専門人材との協力が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴う会員や後継者等の人材不足が深刻 遍路道関係者同士のネットワークが不十分 情報通信技術等の専門人材との協力が必要
支援の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 人的資源のネットワークづくり（遍路道保護団体や専門人材との連携等） 自主財源の範囲内での主体的な整備を促進する長期的な活動支援（必ずしも補助金等による金銭的支援を求めている） 	<ul style="list-style-type: none"> 人材確保につながる機会の創出や人的資源のネットワークづくり 自主財源の範囲内での主体的な整備を促進する長期的な活動支援（必ずしも補助金等による金銭的支援を求めている）

(3) 結果の考察

まず課題に関して、寺院関係者は主に人的資源と金銭的資源に関する課題、遍路道関係者は主に人的資源に関する課題を抱えていることが明らかとなった。

(表 4) とくに、保護活動に関する人材の不足や関係者によるネットワーク構築の要請は、地域の人口減少・過疎高齢化の影響によるものと考えられる。これらの課題に対して、地域内の資源の有効活用のみでは対応できない可能性があることから、地域内外からのボランティアや寄付の確保など、保護活動のための人材や財源の確保に焦点を置いた交流人口の拡大が必要であると考えられる。

また、行政による支援の方向性に関して、寺院及び遍路道関係者は公的資金に依存しない自主財源の範囲内での整備を考えており、必ずしも補助金のような短期的に直接関与する金銭的支援等を求めていることが明らかとなった。このことから、行政には、地域内外からの人材の確保につながるような機会の創出や多様な人的資源のネットワークづくりなど、寺院及び遍路道関係者による主体的な整備を促進する長期的な活動支援が求められていると考えられる。

第 4 章 巡礼者の拡大と保護活動のための人材及び財源の確保の可能性

第 1 節 世界遺産登録による交流人口の拡大の可能性と限界

関係自治体等が連携して推進する「世界遺産登録」には、文化財の持続的な保護を図るという本来の目的の他に、文化財のもつ価値などを国内外に広く発信し、交流人口の拡大などによる経済効果等につなげるといった副次的な側面もある。服藤（2005）や株式会社いよぎん地域経済研究センター（2017）によれば、世界遺産登録による経済効果や誘客効果が少なくとも

1 年から 3 年程度続くことが示唆されている。

この示唆からは、一方で、世界遺産登録による効果が 3 年程度しか持続しない可能性も考えられることから、持続可能な文化資産の保護を実現するためには、世界遺産登録を見据えた保護活動を推進しつつも、一過性の誘客効果に依存しない、交流人口の拡大につながる整備の方向性を明らかにするとともに、寺院及び遍路道関係者が期待する「保護活動のための人材や財源の確保」について検討する必要があるといえる。

第 2 節 目視調査及びアンケート調査

交流人口の拡大につながる整備の方向性を明らかにするためには、交流人口である巡礼者の行動や属性、意識などを把握し、現代の巡礼者の実態を明らかにする必要がある。そのため、寺院を訪れた巡礼者に対する目視調査及びアンケート調査を実施した。

(1) 調査概要

本調査は、四国遍路のハイシーズン⁵とされる 11 月 14 日から 20 日までの 7 日間、納経所の受付時間である午前 7 時から午後 5 時までの時間帯で実施した。調査方法は、国指定史跡である遍路道や公共交通機関と接続する第 22 番札所平等寺の境内において、寺院を訪れる巡礼者の行動を目視調査により確認するとともに、巡礼者に対するアンケート調査を実施した。調査内容は、目視調査では、巡礼者数、団体バス台数、平均滞在時間、寺院縁起である「弘法の霊水」に対する礼拝の有無を確認した。また、アンケート調査では、属性項目（年齢、居住地、交通手段、遍路回数（訪問回数）、巡礼（訪問）予定、巡礼（訪問）のきっかけ、巡礼（訪問）中に必要と感じた情報、巡礼（訪問）の目的）と意識項目（寺院に対する意識、遍路道に対する意識、四国遍路全般に対する意識）を調査した。

(2) 目視調査の結果

まず、訪問形態に関して、本調査で確認した巡礼者数は 861 人であり、団体訪問（309 人）より個人訪問（552 人）の方が多かった。また、団体バスは、大型バス（5 台）よりマイクロバス（8 台）の方が多かった。これらのことから、現代の巡礼者は、個人または少人数で巡礼する形態が多いと推測される。

次に、境内での行動に関して、巡礼者の平均滞在時間は、団体訪問（約 30 分）より個人訪問（約 25 分）の方が短かった。また、寺院縁起に対する礼拝は、ツアーガイドを伴う団体訪問（約 8 割）よりも個人訪問（約 1 割）の方が少なかった。これらのことから、個人訪問者は寺院に対する理解の不足などにより、構成資産を把握できていない可能性が示唆される。

以上より、巡礼者の個人化または少人数化が進行する中、個人訪問者に対する「寺院の理解促進に関する整備」が不十分である可能性が示唆される。

(3) アンケート調査の結果

本調査の回答依頼数は487件であり、回答数は179件、回答欄が白紙であったものを除いた有効回答数は173件（有効回答率：35.5%）⁶であった。

1) 属性項目

ア) 年齢（単一回答）

最も多い年齢は60代（39.3%）であり、60代以上（57.2%）が過半数を占めていた。（図3）

イ) 居住地（単一回答）

巡礼者は、四国地方（26.6%）や近畿地方（20.2%）からの訪問が多いが、概ね全国から訪問している可能性が示唆される。（図4）

ウ) 交通手段（複数回答）

最も多い交通手段は自家用車（64.2%）であり、次いで徒歩（22.0%）が多かった。また、鉄道を併用する徒歩の巡礼者が多かった。（図5）

エ) 遍路回数（単一回答）

初めて四国遍路を行う新規顧客（64.2%）の方が、2回目以上の巡礼であるリピーター（35.8%）より多かった。

オ) 巡礼予定（単一回答）

全ての寺院を一度の滞在で巡礼する「通し打ち」（11.6%）と比べて、数回の滞在に分けて巡礼する「区切り打ち」（88.4%）の方が多かった。

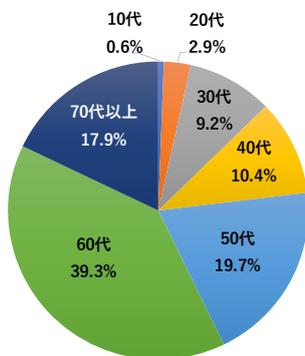


図3 巡礼者の年齢

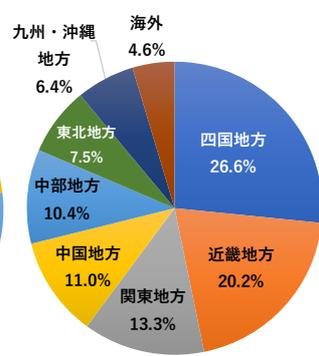


図4 巡礼者の居住地

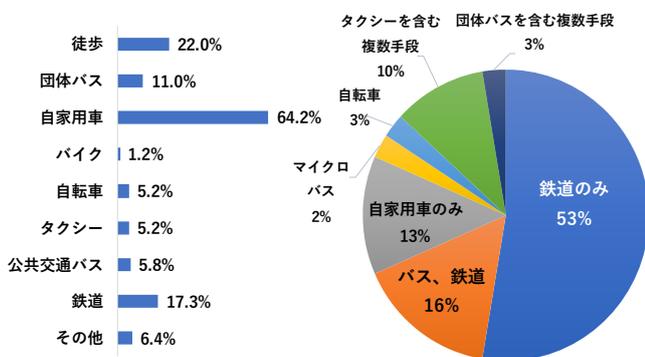


図5 巡礼者の交通手段（左図）及び徒歩との併用手段（右図）

カ) 巡礼のきっかけ（複数回答）

最も多いきっかけは家族・知人等の紹介（47.4%）であり、口コミ情報のブログ（4.0%）やSNS（2.3%）は少なかった。このことから、巡礼者は、自身が信頼できると感じる口コミ情報をきっかけとしている可能性が示唆される。（図6）

キ) 巡礼中に必要と感じた情報（複数回答）

巡礼者は、遍路道に関する経路（46.2%）や所要時間（40.5%）、寺院に関する礼拝作法（35.8%）などを必要と感じており、巡礼に直接関係のある情報を求めている可能性が示唆される。（図7）

ただし、巡礼者の中には、寺院に関する文化的価値（29.5%）や弘法大師の逸話や伝承（28.3%）、仏教体験の内容や参加方法（7.5%）などを必要と感じた巡礼者もいた。

ク) 巡礼の目的（複数回答）

巡礼の目的は、仏教信仰に基づく「先祖・故人の供養」や「信仰」と比べて、「精神修養」や「祈願」が多かった。このことから、巡礼者の多くは、宗教的な目的よりも精神修養による自己実現や祈願によるご利益の享受を求めている可能性が示唆される。（図8）

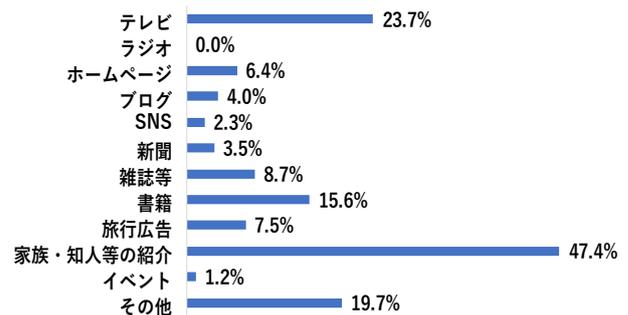


図6 巡礼者の巡礼のきっかけ

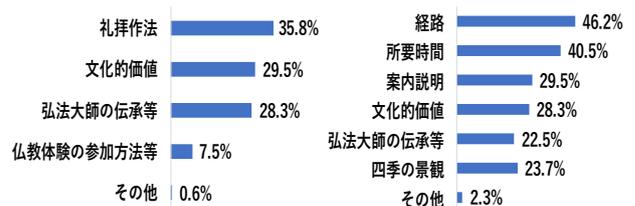


図7 必要と感じた寺院（左図）及び遍路道情報（右図）

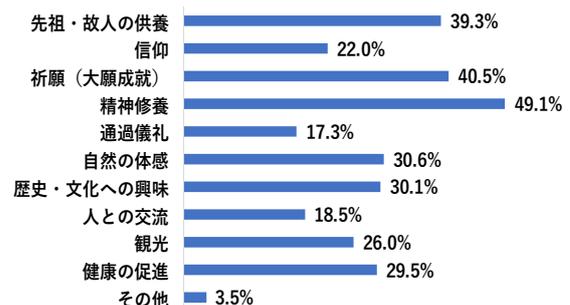


図8 巡礼者の巡礼の目的

表5 意識項目に対する調査結果

質問内容		「とても思う」 又は「思う」	それ以外の 回答
寺院	ア) 寺院を構成する文化遺産の文化的価値(歴史など)を理解することができた	85.6%	14.4%
	イ) 四国八十八ヶ所霊場以外の文化遺産についても知りたいと思った	76.3%	23.7%
	ウ) 読経や瞑想、法話などにより、遍路文化を体感することができた	76.3%	23.7%
	エ) ボランティアや寄付などにより、寺院を含む文化遺産を次世代に継承したい	86.7%	13.3%
遍路道	オ) 当時の雰囲気を残す古道に魅力を感じた	87.8%	12.2%
	カ) 古道を散策するツアーがあれば、参加してみたい	60.7%	39.3%
	キ) 古道以外にも、地域住民の生活が感じられる風景や街並みに魅力を感じた	76.3%	23.7%
	ク) 遍路道に残る丁石や道標などの文化遺産から、遍路文化を学ぶことができた	78.6%	21.4%
	ケ) 遍路道にある道標などにより、迷うことなく巡礼できた	70.5%	29.5%
コ) ボランティアや寄付などにより、遍路道を次世代に継承したい	86.1%	13.9%	
全般	サ) 静かな環境のなか、ゆっくりと巡礼することに魅力を感じた	95.9%	4.1%
	シ) 地域住民のお接待などにより、「感謝の心」や「癒し」を感じた	83.8%	16.2%
	ス) 寺院や遍路道、お接待などを支える地域住民等の活動が大切であると思う	94.2%	5.8%
	セ) 地域住民や巡礼者との交流により、四国遍路に自分なりの意味を見出した	79.8%	20.2%
	ソ) 世界遺産登録などにより、少しでも多くの人に四国遍路を知ってほしい	89.0%	11.0%
	タ) また「四国八十八ヶ所霊場と遍路道」を巡礼したい	92.5%	7.5%

2) 意識項目 (単一回答)

全ての項目について、「とても思う」または「思う」と回答した巡礼者が6割を超えており、四国遍路に概ね肯定的な意識をもつ可能性が示唆される。(表5)

第3節 調査結果の統計解析

「交流人口の拡大」及び「保護活動のための人材や財源の確保」の観点から統計上有意となる巡礼者の傾向を明らかにするため、調査結果の統計解析を行った。

(1) 解析方法

統計解析ソフト「SPSS ver. 12.0J」を使用し、ピアソンの積率相関分析やクロス集計に対するピアソンの χ^2 検定等を行った。なお、有意水準は5%とした。

(2) 交流人口 (巡礼者) の拡大

1) 居住地に関する分析

まず、新規顧客及びリピーターがどこから訪問する傾向にあるのかを分析するため、巡礼者の「居住地から寺院までの距離」と「新規顧客数」または「リピーター数」との相関分析を行った。(表6) 分析結果から、新規顧客(64.1%)は居住地に関係なく訪問し、リピーター(35.9%)は居住地からの距離が近いほど多く訪問している可能性が示唆される。

次に、巡礼者の「居住する地方の人口」と「新規顧客数」または「リピーター数」との相関分析を行った。

(表6) 分析結果から、新規顧客は人口が多い地方ほど多く訪問している可能性が示唆される。

表6 居住地に関する分析結果

(ピアソンの積率相関分析)	新規顧客	リピーター
居住地からの距離	相関なし	相関あり ($r = -0.51, p < 0.01$)
居住地の地方別人口	相関あり ($r = 0.79, p < 0.05$)	相関なし

表7 巡礼の目的に関する分析結果

(クロス集計及びピアソンの χ^2 検定)	新規顧客	リピーター
「精神修養」(49.1%) 「祈願」(40.5%)	関連性なし	関連性なし
「先祖・故人の供養」(39.3%)	関連性なし	関連性あり ($p < 0.05$)
「自然の体感」(30.6%) 「歴史・文化への興味」(30.1%) 「観光」(26.0%)	年齢(40代以下)との関連性あり (全て $p < 0.01$, Cramer V = 0.20 ~ 0.21)	

2) 巡礼の目的に関する分析

巡礼者が四国遍路に何を求めて訪問する傾向にあるのかを分析するため、「巡礼の目的」と巡礼者の属性項目との関連性を分析した。(表7) 分析結果から、精神修養や祈願を目的とする巡礼者は、新規顧客・リピーターの区分に関係なく多い可能性と、先祖・故人の供養を目的とする巡礼者にはリピーターが多い可能性が示唆される。また、40代以下の巡礼者は、精神修養や祈願の他に、自然の体感や歴史・文化への興味、観光を目的としている可能性が示唆される。

加えて、40代以下の巡礼者が寺院の文化的価値を理解できたと思っているのかを分析するため、「年齢(40代以下、50代以上)」と「寺院の文化的価値を理解できた」との関連性を分析した。分析の結果、40代以下の巡礼者と「寺院の文化的価値を理解できた」と思っていない巡礼者との間に関連性がみられたことから、40代以下は「寺院の文化的価値を理解できた」と思っていない可能性が示唆される。(p<0.05)

3) 巡礼中に必要と感じた情報に関する分析

巡礼者が巡礼中にどのような情報を必要とする傾向にあるのかを分析するため、「巡礼中に必要と感じた情報」と巡礼者の属性項目との関連性を分析した。

(表8) 分析結果から、40代以下の巡礼者は、寺院における仏教体験の内容等に関する情報や観光全般に関する情報を求めている可能性が示唆される。

4) 再訪の意向に関する分析

再訪の意向をもつ巡礼者の傾向を分析するため、「再訪の意向」(92.5%が肯定的)と巡礼者の属性項目または意識項目との関連性を分析した。(表9)

表8 巡礼中に必要と感じた情報に関する分析結果

(クロス集計及びフィッシャーの正確確率検定)	分析結果
観光情報(55.5%)	年齢(40代以下)との関連性あり($p < 0.05$)
寺院における仏教体験の情報(7.5%)	年齢(40代以下)との関連性あり($p < 0.05$)

表9 再訪の意向に関する分析

(クロス集計及びフィッシャーの正確確率検定)	分析結果
「新規顧客数」及び「リピーター数」などの属性項目	関連性なし
寺院の文化的価値を理解できた(85.5%が肯定的)	関連性あり($p < 0.05$)
四国遍路以外の文化遺産も知りたいと思った(76.3%が肯定的)	関連性あり($p < 0.05$)
古道を散策するツアーに参加してみたい(60.7%が肯定的)	関連性あり($p < 0.01$)

表 10 ボランティアや寄付の意向に関する分析

(クロス集計及びフィッシャーの正確率検定)	寺院	遍路道
年齢、居住地、遍路回数などの属性項目	関連性なし	関連性なし
寺院の文化的価値を理解できた (85.5%が肯定)	関連性あり ($p < 0.05$)	関連性あり ($p < 0.01$)
古道に魅力を感じた (87.9%が肯定)	関連性あり ($p < 0.05$)	関連性あり ($p < 0.01$)
道標等により迷うことなく巡礼できた (70.5%が肯定)	関連性あり ($p < 0.05$)	関連性あり ($p < 0.01$)
地域住民等の活動が大切と思う (94.2%が肯定)	関連性あり ($p < 0.01$)	関連性あり ($p < 0.01$)
世界遺産登録等により魅力を発信したい (89.0%が肯定)	関連性あり ($p < 0.01$)	関連性あり ($p < 0.01$)

分析結果から、巡礼者は年齢や居住地、新規顧客・リピーターの区分に関係なく再訪の意向をもつ可能性が示唆される。また、寺院の文化的価値を理解できたと思う巡礼者や他の文化遺産も知りたいと思う巡礼者、古道の散策ツアーに参加したいと思う巡礼者は再訪の意向をもつ可能性が示唆される。ただし、40代以下は寺院の文化的価値を理解できたと思っていない可能性があることに留意する必要がある。

(3) 保護活動のための人材や財源の確保

交流人口である巡礼者をもつボランティアや寄付に関する傾向を明らかにするため、「寺院に対するボランティアや寄付の意向」(86.7%が肯定的)及び「遍路道に対するボランティアや寄付の意向」(86.1%が肯定的)と巡礼者の属性項目または意識項目との関連性を分析した。(表 10)

1) 属性項目

巡礼者の属性項目に関して、巡礼者は年齢や居住地、新規顧客・リピーターの区分に関係なく寺院及び遍路道に対するボランティアや寄付の意向をもつ可能性が示唆される。

2) 意識項目

はじめに、寺院に関する意識項目に関して、寺院の文化的価値を理解できたと思う巡礼者は、寺院及び遍路道に対するボランティアや寄付の意向をもつ可能性が示唆される。ただし、40代以下は寺院の文化的価値を理解できたと思っていない可能性があることに留意する必要がある。

続いて、遍路道に関する意識項目に関して、古道に魅力を感じたと思う巡礼者や遍路道における道標等の整備に理解を示す巡礼者は、寺院及び遍路道に対するボランティアや寄付の意向をもつ可能性が示唆される。

最後に、四国遍路全般に関する意識項目に関して、地域住民等の活動が大切と思う巡礼者や世界遺産登録により魅力を発信したいと思う巡礼者は、寺院及び遍路道に対するボランティアや寄付の意向をもつ可能性が示唆される。

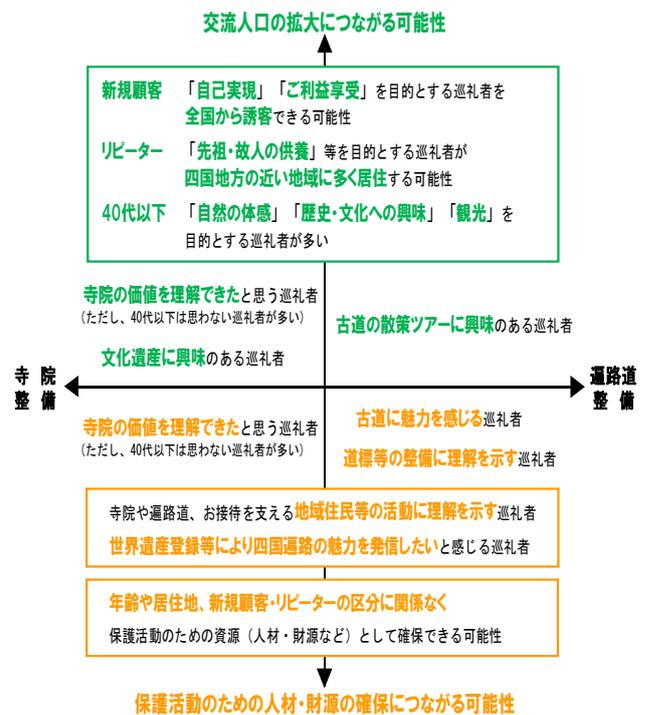


図 9 交流人口の拡大等につながる巡礼者の傾向

第 5 章 結論

第 1 節 整備の方向性

本研究により明らかとなった「保護活動に関する課題と支援の方向性」及び「巡礼者の傾向」(図 9)を踏まえ、文化と観光の好循環を実現する整備の方向性を 2つの観点から考察する。(表 11)

(1) 交流人口の拡大

交流人口の拡大につながる整備として、新規顧客を中心に全国から訪問する巡礼者の拡大を図るため、再訪の意向を促進する整備が必要である。また、マスメディア等による情報発信より口コミ情報の充実・拡散に焦点を置き、巡礼者の満足度の向上を図るため、巡礼者の多様化する目的に対応した整備が必要である。

整備内容としては、巡礼者の傾向を踏まえ、寺院の文化的価値の理解促進に関する整備や古道散策ツアーに関する整備などが挙げられ、これらの整備を推進するためには、四国遍路関係者と様々な分野の専門家との連携体制の構築が必要である。

(2) 保護活動のための人材や財源の確保

保護活動のための人材や財源の確保につながる整備として、寺院又は遍路道の整備が寺院及び遍路道の双方に対するボランティア等の意向を促進させる可能性があることから、寺院及び遍路道関係者が積極的に連携して整備を推進する必要がある。また、全国に居住する巡礼者からボランティアや寄付の確保を図るため、関係自治体と連携した「ふるさと納税」等の施策の拡充が必要である。

表 11 文化と観光の好循環を実現する整備の方向性

		交流人口の拡大につながる整備の方向性	保護活動のための人材や財源の確保につながる整備の方向性
整備の方向性	方向性	再訪促進の整備 ⇒ 全国から訪問する傾向にある巡礼者の拡大を図る 巡礼者の多様化する目的に対応した整備 ⇒ マスメディア等による情報発信より口コミ情報の充実・拡散に焦点を置き、巡礼者の満足度の向上を図る	寺院及び遍路道関係者の積極的な連携による整備推進 ⇒ 寺院の整備が寺院及び遍路道に対するボランティア等の意向を促進させる可能性がある（遍路道の整備も同様） 関係自治体との積極的な協働による整備推進 ⇒ 全国に居住する巡礼者に対し、関係自治体と連携した「ふるさと納税」等の施策の拡充（ボランティア体験等の返礼品検討）
	具体例	寺院の文化的価値の理解促進に関する整備 ・ 巡礼者の個人化、少人数化に対応した寺院の理解促進に関する整備（QRコードを活用した解説など） ・ 自己実現（精神修養）などの多様な価値観を踏まえた解説の整備 ・ 次世代の担い手である40代以下の若い世代の理解を促進する体験プログラム（仏教体験、観光連携など）の整備 遍路道の古道散策ツアーに関する整備 ・ 地域住民団体と観光事業者等が連携したツアーの整備 ・ 周辺の文化遺産も含めた遍路道の散策ツアーの整備	遍路道の道標等の整備 ・ 多くの巡礼者が遍路道の経路・所要時間の情報を求めている ・ 巡礼者の 29.5 %は、迷わず巡礼できたと感じていない 寺院に対する理解促進、古道の魅力発信、地域住民活動に対する理解促進 世界遺産登録を見据えた整備の検討 ・ 世界遺産に肯定的な意識をもつ巡礼者はボランティア等の意向をもつ ・ 登録後の本資産を次世代に継承するための役務（ボランティア）や費用（寄付）の負担などを巡礼者に求めることを検討
行政による支援の方向性		四国遍路関係者と様々な分野の専門家との連携体制の構築 ⇒ 連携推進のための機会づくりや組織づくり ・ 多分野の研究機関との連携により、多様な価値観から解説を検討 ・ 地域企業等との連携により、情報通信技術等を活用した解説等の整備を推進 ・ 観光事業者等との連携により、地域住民団体と連携したツアーの造成等を推進	寺院及び遍路道関係者の連携体制の構築 ⇒ 連携推進のための機会づくりや組織づくり 寺院及び遍路道関係者と協働した支援施策の構築 ⇒ 関係者の主体的な整備を促進し、地域内外からの人材・財源を確保 世界遺産登録を見据えた組織づくり ⇒ 世界遺産登録後の保護活動における人材及び財源のマネジメントを検討

整備内容としては、巡礼者の傾向を踏まえ、寺院に対する理解促進、古道の魅力発信、遍路道の道標等の整備、地域住民活動に対する理解促進などに関する整備が挙げられる。また、世界遺産登録後の保護活動に必要な人材や財源の確保など、世界遺産登録を見据えた組織づくりが必要である。

第2節 政策の方向性

本資産における文化と観光の好循環を実現するための政策の方向性をまとめる。

(1) 世界遺産登録を見据えた組織の強化

本資産の持続可能な保護の実現には、寺院及び遍路道関係者や関係自治体のみならず、研究機関をはじめとする様々な分野の専門家との連携体制の強化を図り、関係者が一体となって世界遺産登録を見据えた本資産の整備を推進する必要がある。そのためには、本資産に関する広域的な政策を推進する世界遺産登録推進協議会のネットワークを活用し、整備に関する様々な課題を解決できる専門家と寺院及び遍路道関係者との連携の機会を創出する政策が求められる。

また、世界遺産登録後の本資産の保護に必要な人材や財源のマネジメント等について、世界遺産登録推進協議会を中心として検討するなど、人口減少・過疎高齢化などを見据えた持続可能な保護体制について官民協働で検討することが求められる。

(2) 官民協働による保護活動の支援の強化

本資産の持続可能な保護の実現には、寺院及び遍路道関係者による主体的な保護活動が必要不可欠であることから、本関係者と関係自治体との対話の機会を創出し、官民協働で本資産の保護施策を構築する環境づくりが求められる。とくに、遍路道の保護活動にお

いて、地域住民団体と関係自治体との連携による「ふるさと納税を活用した整備推進施策」が成果を上げるなど、官民連携による施策に課題解決の可能性があることから、四国全域における積極的な施策の構築を推進することが望ましい。

第3節 今後の課題と展望

本研究では、主体的な保護活動に取り組む関係者を対象として研究を進めたことから、主体的な保護活動には至っていない関係者に対するフォローアップなどに言及できていない。とくに、地域住民団体の設立支援は、ヒアリング調査からも必要性が指摘されており、地域で活躍する人材等の情報収集や団体設立に向けた勉強会の開催、NPO法人等の設立を目指す場合の事務処理支援など、支援策に関する事例研究が求められる。

また、世界遺産登録後の保護体制に関して、本研究では世界遺産登録推進協議会を中心とする関係者の連携体制の強化等が必要であることを指摘したが、その連携の対象となる地域住民団体については、行政等により十分に把握されていない。そのため、寺院及び遍路道関係者と自治体が連携して情報収集に努めるなど、地域社会を巻き込んだ保護体制の構築が求められる。

謝辞

寺院に関する貴重なお話を賜った第6番札所安楽寺住職、畠田秀峰様、第22番札所平等寺住職、谷口真梁様、第23番札所薬王寺住職、今川泰伸様、遍路道に関する貴重なお話を賜ったNPO法人徳島共生塾一步会会長、谷口右也様、加茂谷へんろ道の会会長、横井知昭様に感謝申し上げます。

脚 注

- 1) 「史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書」(文化庁 2015)において指摘されている。
- 2) 2018 年における「太龍寺ロープウェイの輸送実人員」を巡礼者数の近似値として採用した。
- 3) 四国遍路の起源には諸説あるため、本研究では「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」(四国 4 県 58 市町村 2016)に記載されている内容を参考とする。
- 4) 「我が国の世界遺産暫定一覧表への文化資産の追加記載に係る調査・審議の結果について」(文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会 2008)で示された。
- 5) 「四国遍路ひとり歩き同行二人：解説編(第 8 版)」(へんろみち保存協力会 2017)において、最も適した時候を春(3 月から 5 月まで)と秋(9 月から 11 月まで)としている。
- 6) 母集団を 5.5 万人(2018 年の巡礼者数)、誤差を 5%、信頼度を 95%とする場合、統計上必要となるサンプルサイズは 382 件となるが、本研究では一定の成果を見出すために 173 件のサンプルで研究を進めた。
- d) 新井直樹(2008)「世界遺産登録と持続可能な観光地づくりに関する一考察」、『地域政策研究』(高崎経済大学地域政策学会)、11(2)、pp. 39-55
- e) 株式会社いよぎん地域経済研究センター(2017)「四国遍路を世界の“HENRO”へ：世界遺産登録に向けた動きと観光への影響」、『IRC monthly 調査月報』(いよぎん地域経済研究センター)、344、pp. 16-25
- f) 長田攻一、関三雄、坂田正顕 編(2003)『現代の四国遍路 一道の社会学の視点から』、学文社
- g) 佐藤久光(2004)『遍路と巡礼の社会学』、人文書院
- h) 竹川郁夫(2017)「調査データで見る現代の四国遍路―繁多寺での質問紙調査より」、『四国遍路と世界の巡礼』(世界の巡礼研究センター)、2、pp. 55-63
- i) 鈴木無二(2007)「巡礼の観光社会学―巡礼経験のカテゴリー化に向けて―」、『プロジェクト研究』(早稲田大学総合研究機構)、3、pp. 1-12
- j) 星野英紀、浅川泰宏(2011)『四国遍路 さまざまな祈りの世界』、吉川弘文館
- k) 四国経済連合会、四国アライアンス地域経済研究分科(2019)「新時代における遍路受入態勢のあり方～遍路宿泊施設の現状・課題等調査～ 報告書」
- l) 森正人(2005)『四国遍路の近現代：「モダン遍路」から「癒しの旅」まで』、創元社
- m) 新林智典(2016)『『四国遍路』の世界遺産登録運動にみる文化景観の変容』、『地理学報告』(愛知教育大学地理学会)、118、pp. 17-29
- n) 4 県 58 市町村(2016)「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書 四国八十八箇所霊場と遍路道」
- o) 一般社団法人へんろみち保存協力(2017)『四国遍路ひとり歩き同行二人：解説編(第 8 版)』、セキ

主な参考文献

- a) 垣内恵美子 編(2011)『文化財の価値を評価する景観・観光・まちづくり』、水曜社
- b) 文化庁(2015)「史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書」
- c) 服藤圭二(2005)「世界遺産登録による経済波及効果の分析＝「四国八十八ヶ所」を事例として」、『ECPR』(えひめ地域政策研究センター)、15、pp. 45-51

The study of Sustainable Cultural Property Protection in the case of “The Eighty-eight Temples and Pilgrimage Route of Shikoku”: Policy directions to realize a virtuous cycle of Utilization of Cultural assets and Revitalization of the Tourism

Tomoya TAKAHASHI

This study considered the direction of the development of cultural properties that will lead to the sustainable protection of “The Eighty-eight Temples and Pilgrimage Route of Shikoku” from the viewpoint of a virtuous cycle of Utilization of Cultural assets and Revitalization of the Tourism.

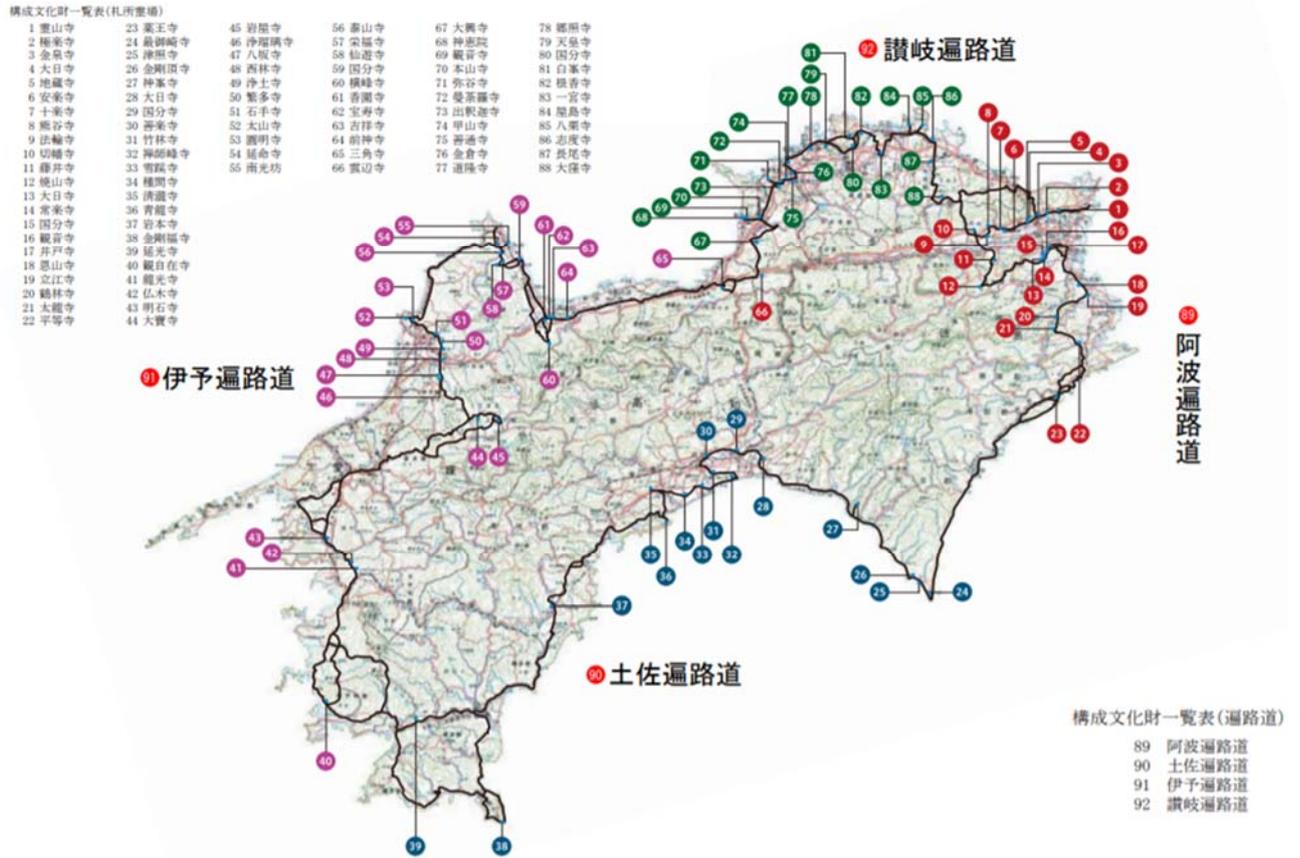
In order to achieve sustainable protection of this asset, it is necessary to clarify the issues facing the owners and managers of cultural properties and to consider the direction of the development of cultural properties that responds to those issues. In addition, it is necessary to understand the behavior and consciousness of the pilgrims and consider the direction of sustainable development through increasing the numbers of tourists and visitors. In this study, a field survey was conducted to clarify the issues related to the preservation and utilization of the property and the tendency of pilgrims. In addition, I analyzed the tendency of pilgrims in detail by statistical analysis and clarified the direction of maintenance that would lead to the expansion of the exchanged population and the securing of volunteers and donations from inside and outside the area.

Key Words : Cultural Property Protection, Tourist Use, Sustainability,
The Eighty-eight Temples of Shikoku Henro, The Pilgrimage Route of Shikoku Henro

巻末資料

資料1 四国八十八箇所霊場と遍路道の概要

構成資産位置図



別図1 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の構成資産位置図

(出典：日本遺産ポータルサイト <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story015/>)

資料2 ヒアリング調査

(1) 調査地域

本調査では、主体的な保護活動に取り組む寺院及び遍路道関係者を対象とするため、遍路道の保護活動が盛んである徳島県阿南市を中心に調査を実施した。なお、本地域には、四国最長の国指定史跡の遍路道が現存している。(別図2及び別表1)



別図2 徳島県に現存する最長の国指定史跡の遍路道

(出典：「あなん遍路史跡めぐり」(加茂谷へんろ道の会、阿南市文化振興課 2016))

別表1 徳島県阿南市の国指定史跡の遍路道 (2019. 10. 16 時点)

道名	指定距離	指定
太龍寺道	2.645 km	2010年8月5日指定
いわや道	0.585 km	2010年8月5日指定
	2.09 km	2013年3月27日指定
平等寺道	0.66 km	2013年3月27日指定
かも道	1.34 km	2015年10月7日指定
合計	7.32 km	

(世界遺産登録推進協議会事務局の提供資料から筆者作成)

(2) 調査対象

調査対象とする寺院及び遍路道関係者は次のとおりである。(別表2及び別表3)

別表2 調査対象(寺院関係者)

調査対象	調査日時	備考
第6番札所安楽寺 住職	2019年11月1日 15~18時	最大収容人数350人の大規模な宿坊と温泉を有する(調査地域外)
第22番札所平等寺 住職	2019年11月5日 10~13時	公共交通機関や主要道路に近接し、多様な交通形態の巡礼者を受け入れることができる地理的状況にある
第23番札所薬王寺 住職	2019年11月6日 13~15時	調査地域に近接する観光地に所在し、宿坊と温泉を有する

別表3 調査対象(遍路道関係者)

調査対象	調査日時	備考
NPO法人徳島共生塾一步会	2019年10月30日 14~16時	地域の環境問題やまちづくり、文化の振興等を活動テーマとして、徳島県下の遍路道の清掃活動やウォーキングイベントなどに主体的に取り組む (1997年に設立、2001年に法人認証)
加茂谷へんろ道の会	2019年11月1日 10~12時	○ 阿南市加茂谷地区の阿波遍路道の整備 清掃や保全活動、ガイド活動などの多様な活動に主体的に取り組む ○ 「かも道」「いわや道」の定期整備を阿南市から受託して実施する (2013年に設立)

(3) 調査方法

次の項目を中心に、寺院及び遍路道関係者に対して対面による聞き取りを行った。

- ア) 交流人口(巡礼者)の拡大に対する関係者の意識
- イ) 関係者による整備(保存整備・活用整備)の取組状況
- ウ) 整備に関して関係者が抱える課題
- エ) 課題に対する関係者の意向
- オ) 行政に期待する支援の方向性

(4) 調査結果

5つの調査項目に対する聞き取り内容は次のとおりである。(別表4から別表8まで)

別表4 交流人口の拡大に対する関係者の意識

寺院関係者	遍路道関係者
<p>交流人口の拡大に肯定的</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巡礼者や地域住民などによる人との交流の活性化により、新たな遍路文化が芽生える可能性がある ○ 巡礼を重ねることにより信仰心が芽生える可能性があるため、巡礼者は増加した方がよい ○ 現代の四国遍路は自動車による巡礼に適したものへと変容しているため、歩き遍路だけではなく団体バスなどの誘客も考える必要がある 	<p>交流人口の拡大に肯定的</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遍路道は利用者が存在して成立するため、利用者が多すぎるのは困るが、利用者の増加は本団体の活動の励みになる ○ 宿泊業等の起業が促進される可能性がある ○ 世界遺産登録にあたり、増加が見込まれる巡礼者・観光客の受入環境の整備は必要であると感じる 例：公衆トイレの整備、テント場・水道・簡易トイレの整備など

別表5 関係者による整備（保存整備・活用整備）の取組状況

寺院関係者	遍路道関係者
<p>保存整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寺院及び保有資産の維持管理や修繕 ・ 数年計画で檀家等から維持管理や修繕に関する寄付を確保 ・ 檀家との持続的で良好な関係づくり (貸切バスによる四国遍路ツアーなど) <p>活用整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ QRコードを活用した解説の整備 ・ 地域クリエイターと連携したホームページの改修 ・ 英語の案内パンフレットの作成 ・ 巡礼者のためのFree Wi-Fi整備 ・ 地域の遍路宿の減少に対応するための民泊の宿坊を開設・運営 ・ 寺院での仏教体験（お勤め等）や地域住民等との交流の機会を創出 ・ 地域住民等による「お接待」ができる空間づくり (テント設置) 	<p>保存整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遍路道の清掃や保全活動 (定期整備と災害後の緊急整備) ・ 「ふるさと納税」を活用したクラウドファンディングによる財源の確保 <p>活用整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遍路道のガイド活動 (企業研修や小学生の校外学習等) ・ 遍路道周辺の若杉山辰砂採掘遺跡のガイド活動 (遍路道も含めた地域文化の発信) ・ ウォーキングイベント等による遍路文化の魅力発信 ・ パンフレット(英語版も含む)の作成による広報活動 ・ 子供たちに自然や文化を感じてもらうための小学校等への出前講座

別表6 整備に関して関係者が抱える課題

寺院関係者	遍路道関係者
<p>人材不足</p> <p>ア) 地域において、宿坊経営に必要な人材が不足している（現在は大部分を閉鎖中）</p> <p>イ) 遍路道保護団体の会員の高齢化が進行していることから、20年後には団体が消滅する可能性があるため、横のつながりを促す取組が必要と感じる</p> <p>財源不足</p> <p>ウ) 寺院において仏像60体の保存・公開を行っているが、維持管理費用の持続的な確保が課題</p> <p>エ) 自然災害等の影響で寺院の緊急修繕を必要とすることがあり、予算のマネジメントに苦慮している</p> <p>技術的課題</p> <p>オ) 予算と空間が必要となる境内の解説板の整備を、情報通信技術などで工夫したい</p> <p>カ) 解説板の他、Free Wi-Fi や AI の活用など、情報通信技術等を活用した便益施設の整備を進めたい</p>	<p>人材不足</p> <p>ア) 会員の高齢化や後継者問題などが進行しているため、遍路道の道標等の整備やガイド活動ができる多様な人材を確保・養成したい</p> <p>イ) 地域住民の高齢化や減少が進行しているため、活動への関心が小さい地域の若い世代を活動に誘引したい</p> <p>技術的課題</p> <p>ウ) 道標が全体的に不足しているが、経年劣化や自然災害などの影響で破損することがあるため、維持管理には手間がかかる</p> <p>きめ細やかな道標の整備や、遍路道に残る道標や丁石等に関する解説、遍路道の四季の景観などの魅力発信を行いたいと考えているが、道標・解説板は経年劣化や自然災害などの影響で破損することがあるため、維持管理には手間がかかる</p>

別表7 課題に対する関係者の意向

寺院関係者	遍路道関係者
<p>人材不足</p> <p>ア) 地域内外からの人材の確保を図っているところ ⇒ 行政による支援の可能性あり</p> <p>イ) 連携を促進するための行政などの支援が必要</p> <p>財源不足</p> <p>檀家等の寄付金により維持管理・修繕を行っているが、交流人口による寄付の拡大も期待している （公的資金に頼らない自主財源（寄付等）の確保に意欲的である）</p> <p>技術的課題</p> <p>技術のノウハウなどを持つ主体との連携に関する支援が必要（自主財源の範囲内で整備している） ⇒ 整備費用に関する支援の要請なし</p>	<p>人材不足</p> <p>ア) 地域内外からの人材の確保を図るため、SNS や イベント等で会員を募集しているところ ⇒ 行政による支援の可能性あり 自治体主催のイベント等に積極的に参加して他のボランティア団体との横のつながりを構築しているところ ⇒ 行政による支援要請あり</p> <p>イ) 地域の小学校への出前講座などに取り組むとともに、親子で参加できるウォーキングワークショップ（遍路道の散策と整備体験）を企画しているところ ⇒ 行政による支援の可能性あり 遍路道の保護には、地域住民が自分たちの財産であると認識し、地域住民が遍路道の価値やすばらしさを実感し、身近に感じてもらうことが必要であるため、遍路道のウォーキングイベントを実施 ⇒ 行政による支援の可能性あり</p> <p>技術的課題</p> <p>ウ) 技術のノウハウなどを持つ主体との連携に関する支援が必要（自主財源の範囲内で整備している） ⇒ 整備費用に関する支援の要請なし</p>

別表 8 行政に期待する支援の方向性

寺院関係者	遍路道関係者
<ul style="list-style-type: none"> ○ 寺院等の保護措置に必要な文化財調査などの支援 (専門的知見と長期間の調査時間を必要とするため) ○ コスト意識を持った持続可能な支援体制の構築 (多額の自主事業や補助金事業を求めているわけではない) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政には、地域住民等の保護活動に関する意識を醸成するきっかけづくりや、地域団体との対話を通じた対策の検討が求められる ○ 行政には、地域の自主的な活動の体制づくりに対する支援が必要になると考える

(4) 結果の考察

本調査の結果から、関係者が抱える課題及び支援の方向性を整理する。(別表 9 及び別表 10)

別表 9 関係者が抱える課題の抽出

寺院関係者	遍路道関係者
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「人材不足」「財源不足」「技術的課題」の3点に課題を感じている ○ 寺院関係者と遍路道関係者とのネットワークが十分に整備されていない ○ 公的資金に頼らない自主財源(寄付等)の確保に意欲的であり、自主財源の範囲内で整備を考えている ○ 情報通信技術などによる整備の効率化を求めている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「人材不足」「技術的課題」の2点に課題を感じている ○ 会員の高齢化に伴う人材不足が深刻である ○ 遍路道関係者のネットワークが十分に整備されていない (ただし、世界遺産登録推進協議会の構成員間は除く) ○ 公的資金に頼らない自主財源(寄付等)の範囲内で整備を考えている ○ 情報通信技術などによる整備の効率化を求めている

別表 10 課題に対する支援の方向性

寺院関係者	遍路道関係者
<ul style="list-style-type: none"> ○ 寄付等の自主財源の確保に意欲的であり、必ずしも補助金等による金銭的支援を求めている ○ 遍路道の保護団体や専門的知見を持つ人材との連携など、人的資源のネットワークづくりに関する支援を求めている ○ 寺院関係者は、人材の確保や寄付等の拡大など、交流人口の拡大を契機として解決する可能性がある課題を抱えていること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寄付等の自主財源の確保に意欲的であり、必ずし補助金等による金銭的支援を求めている ○ 人材の確保につながる機会の創出や人的資源のネットワークづくりに関する支援を求めている ○ 遍路道関係者は、交流人口の拡大を契機として解決する可能性がある課題を抱えている

資料3 目視調査

(1) 調査場所

調査場所は、ヒアリング調査を実施した寺院のうち、次の条件を満たす平等寺を選定した。調査場所は、平等寺境内に設置された多目的テントを利用した。

調査対象の選定条件

- ア) 国指定史跡である遍路道と接続する寺院であること
- イ) 主な公共交通機関である鉄道の駅が近くにあること
- ウ) 駐車場と納経所が調査地点から見渡せる範囲内にあること
- エ) 寺院の縁起となる資産が調査地点から見渡せる範囲内にあること
- オ) 調査地点から見渡せる範囲内でお接待が行われていること

(2) 調査対象

調査対象は、平等寺を訪れた訪問者のうち、服装などから参拝目的と推測される巡礼者を対象に調査を実施した。なお、参拝目的か否かの推測は、調査員である筆者の主観的判断により行った。

(3) 調査方法

次の項目について、調査員1名(筆者)が目視で確認を行った。

- ア) 巡礼者数(男女別、国籍別、個人・団体訪問別)
- イ) 団体バス台数(大型・中型・マイクロバスの3区分)
- ウ) 平均滞在時間(個人・団体訪問別)
- エ) 寺院縁起への礼拝の有無(「弘法の霊水」を調査対象とする)
- オ) お接待の有無

(4) 調査結果

5つの調査項目に関して確認した内容は次のとおりである。(別表11及び別表12)

別表11 目視調査の結果(概要)

調査項目	備 考
巡礼者数	巡礼者数：861人(日平均：123人) ○ 平日・休日別(平日平均：85.2人、休日平均：217.5人) ○ 男女別(男性：432人(50.2%)、女性：429人(49.8%)) ○ 国籍別(日本人：847人(98.4%)、外国人：14人(1.6%)) ○ 個人・団体訪問別(個人訪問：552人(64.1%)、団体訪問：309人(35.9%))
団体バス台数	大型バス：5台(157人)のうち、平日3台(87人)、休日2台(70人) 中型バス：2台(45人) 平日のみ マイクロバス：8台(107人)のうち、平日2台(32人)、休日6台(75人)
平均滞在時間	個人訪問：約25分、団体訪問：約30分
寺院縁起への礼拝の有無	個人訪問：約1割が礼拝、団体訪問：約8割が礼拝
お接待の有無	11月14日(木) 10時～12時 阿南南ロータリークラブ(28人) 果物等の提供 11月18日(月) 10時～12時 (公財)阿南法人会(15人) 菓子・飲料等の提供

別表 12 目視調査の結果（詳細）

調査項目	11/14 (木)	11/15 (金)	11/16 (土)	11/17 (日)	11/18 (月)	11/19 (火)	11/20 (水)	合 計
天 候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ時々 雨	晴れ	晴れ	—
平均気温 (°C)	15.7	11.8	12.7	15.3	19.7	13.5	11.7	—
日降水量 (mm)	0	0	0	0	11.0	0	0	—
訪問者数 (人)	72	64	168	267	70	110	110	861
男性 (人) (構成比率)	43 (59.7%)	37 (57.8%)	86 (51.2%)	124 (46.4%)	34 (48.6%)	51 (46.4%)	57 (51.8%)	432 (50.2%)
女性 (人) (構成比率)	29 (40.3%)	27 (42.2%)	82 (48.8%)	143 (53.6%)	36 (51.4%)	59 (53.6%)	53 (48.2%)	429 (49.8%)
日本人 (人) (構成比率)	71 (98.6%)	63 (98.4%)	166 (98.8%)	267 (100%)	61 (87.1%)	1.9 (99.1%)	110 (100%)	847 (98.4%)
外国人 (人) (構成比率)	1 (1.4%)	1 (1.6%)	2 (1.2%)	0 (0%)	9 (12.9%)	1 (0.9%)	0 (0%)	14 (1.6%)
個人訪問者 (人) (構成比率)	72 (100%)	47 (73.4%)	125 (74.4%)	120 (44.9%)	70 (100%)	64 (58.2%)	54 (49.1%)	552 (64.1%)
団体訪問者 (人) (構成比率)	0 (0%)	17 (26.6%)	43 (25.6%)	147 (55.1%)	0 (0%)	46 (41.8%)	56 (50.9%)	309 (35.9%)
バス台数 (台)	0	1	4	6	0	2	2	15
大型バス (台)	0	0	0	2	0	1	2	5
中型バス (台)	0	0	0	2	0	0	0	2
マイクロバス (台)	0	1	4	2	0	1	0	8
お接待の有無	有	無	無	無	有	無	無	—

資料4 アンケート調査

(1) 調査対象

調査対象は、目視調査と同様に、服装などから参拝目的ではないと判断される訪問者を除いた上で調査の依頼を行った。(別図6)ただし、調査員が1名であったことから、全ての巡礼者に対して依頼を行うことができなかったため、有効回答率は依頼数を分母として算出することとする。

また、団体訪問者はツアー行程の関係で滞在時間に制約があるため、回答に約10分を要する本調査の依頼はツアーの案内人に対して行い、2組(8人)から回答を回収した。

(2) 調査方法

調査依頼は、四国遍路に対する意識を調査している旨、調査結果は大学院の論文に活用する旨、回答の所要時間は10分である旨を事前に説明して行った。

なお、調査項目は次のとおりである。(単一回答:22問、複数回答:4問)

属性項目

- ア) 性別(生物学上の性別(Male/Female))
- イ) 年齢(年代)
- ウ) 居住地(都道府県)
- エ) 遍路(訪問)回数
- オ) 交通手段 ※複数回答
- カ) 巡礼(訪問)予定
- キ) 他の文化遺産への巡礼の有無
- ク) 巡礼(訪問)のきっかけ ※複数回答
- ケ) 巡礼(訪問)中に必要と感じた情報 ※複数回答
- コ) 巡礼(訪問)の目的 ※複数回答

意識項目

- ア) 寺院に関する意識(4問)
- イ) 遍路道に関する意識(6問)
- ウ) 四国遍路全般に関する意識(6問)



別図6 アンケート調査の状況(調査場所の状況(左図)と調査回答の状況(右図))

四国遍路に関するアンケート調査

現在、文化政策研究の一環として、世界遺産登録を見据えた「四国八十八箇所霊場と遍路道」の整備及び活用の方向性を導出するための調査研究を行っております。

このたび、四国遍路の実態や巡礼者(観光客も含む)のニーズなどを把握するため、ご来訪の皆様を対象に、アンケート調査を実施いたします。(所要時間は10分程度です。)

なお、ご回答いただいた内容については、学術研究以外の目的には一切使用いたしません。また、全て統計的に処理され、個人情報外部に漏れることはありません。

お急ぎのところ恐縮ですが、率直なご意見を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

政策研究大学院大学 修士課程 文化政策コース
高橋 朋也 (徳島県職員)

問 1 あなたご自身のことを教えてください。

1-1巡礼者(訪問者)の属性

① あなたの性別を教えてください。(1つだけ○)

男性 ・ 女性

② あなたの年齢を教えてください。(1つだけ○)

10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代以上

③ どちらからいらっしゃいましたか。

都道府県

④ あなたの遍路回数を教えてください。

1回目 ・ 2回目 ・ 3回目 ・ 4回目 ・ 5回目以上(回目)

⑤ 主な交通手段を選択してください。(いくつでも○)

1. 徒歩 2. 団体バス 3. 自家用車 4. バイク 5. 自転車 6. タクシー
7. 公共交通バス 8. 鉄道 9. その他()

⑥ 巡礼(訪問)の予定を教えてください。(1つだけ○)

1. 通し打ち(88ヶ寺を一度に巡礼) 2. 区切り打ち(複数回に分けて巡礼)

⑦ 他の文化遺産を巡礼(訪問)したことがありますか。(それぞれ1つだけ○)

サンティアゴ・デ・コンポステーラ

巡礼済み ・ 巡礼予定 ・ 予定なし ・ 知らない

熊野古道

巡礼済み ・ 巡礼予定 ・ 予定なし ・ 知らない

西国三十三所観音霊場

巡礼済み ・ 巡礼予定 ・ 予定なし ・ 知らない

小豆島八十八箇所霊場

巡礼済み ・ 巡礼予定 ・ 予定なし ・ 知らない

1-2 情報収集

① 四国遍路に来ようと思ったきっかけを教えてください。(いくつでも○)

- | | | | |
|--|---------------|-----------|--------|
| 1. テレビ番組 | 2. ラジオ | 3. ホームページ | 4. ブログ |
| 5. SNS (Facebook ・ twitter ・ Instagram ・ Youtube ・
その他()) | | | |
| 6. 新聞 | 7. 雑誌・ガイドブック | |) |
| 8. 書籍 (体験記 ・ 歴史文化 ・ 自己啓発 ・ その他()) | | |) |
| 9. 旅行広告 | 10. 家族・知人等の紹介 | | |
| 11. イベント (講演会 ・ 博覧会 ・ 写真展 ・ その他()) | | |) |
| 12. その他 () | | |) |

② 巡礼(訪問)中に必要と感じた情報を教えてください。(いくつでも○)

- | | |
|--|---|
| 1. 寺院 (礼拝作法 ・ 文化的価値(歴史など)の説明 ・ 弘法大師の逸話や伝承 ・
仏教体験の内容や参加方法 ・ その他()) | |
| 2. 遍路道 (経路 ・ 必要時間 ・ 案内説明 ・ 文化的価値(歴史など)の説明 ・
弘法大師などの逸話や伝承 ・ 四季の景観 ・ その他()) |) |
| 3. 宿坊 (場所 ・ 料金 ・ 受付時間 ・ 予約 ・ キャンセル ・ 食事 ・ 風呂 ・
洗濯 ・ 荷物配送 ・ その他()) |) |
| 4. 遍路文化 (仏教 ・ 歴史的経緯 ・ 巡礼の意義 ・ 死生観 ・ その他()) |) |
| 5. 観光 (観光施設 ・ 写真スポット ・ 自然 ・ 料理 ・ 温泉 ・ その他()) |) |
| 6. その他 () |) |

1-3 巡礼(訪問)の目的

巡礼(訪問)の目的を教えてください。(いくつでも○)

- | | | |
|-------------------------|-----------------------|----------------|
| 1. 先祖・故人の供養 | 2. 信仰 | 3. 祈願 (大願成就) |
| 4. 精神修養 (自分と向き合うため) | 5. 通過儀礼 (人生の区切りとして) | |
| 6. 自然の体感 | 7. 歴史・文化への興味 | |
| 8. 人との交流 (地域住民・巡礼者など) | | |
| 9. 観光 (温泉・グルメ・街並みなど) | 10.健康の促進 | |
| 11.その他 () | |) |

問 2 四国遍路に関して、あなたが当てはまるものを選んでください。

2-1 これまでに訪問した寺院について（1つだけ○）

① 寺院を構成する文化遺産の文化的価値(歴史など)を理解することができた。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

② 四国八十八ヶ所霊場以外の文化遺産についても知りたいと思った。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

③ 読経や瞑想、法話などにより、遍路文化を体感することができた。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

④ ボランティアや寄付などにより、寺院を含む文化遺産を次世代に継承したい。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

2-2 遍路道について（1つだけ○）

① 当時の雰囲気を残す古道に魅力を感じた。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

② 古道を散策するツアーがあれば、参加してみたい。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

③ 古道以外にも、地域住民の生活が感じられる風景や街並みに魅力を感じた。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

④ 遍路道に残る丁石や道標などの文化資産から、遍路文化を学ぶことができた。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

⑤ 遍路道にある道標などにより、迷うことなく巡礼できた。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

⑥ ボランティアや寄付などにより、遍路道を次世代に継承したい。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

2-3 その他（1つだけ○）

① 静かな環境のなか、ゆっくりと巡礼することに魅力を感じた。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

② 地域住民のお接待などにより、「感謝の心」や「癒し」を感じた。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

③ 寺院や遍路道、お接待などを支える地域住民等の活動が大切であると思う。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

④ 地域住民や巡礼者との交流により、四国遍路に自分なりの意味を見出した。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

⑤ 世界遺産登録などにより、少しでも多くの人に四国遍路を知ってほしい。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

⑥ また「四国八十八箇所霊場と遍路道」を巡礼したい。

1. とても思う ・ 2. 思う ・ 3. どちらでもない ・ 4. 思わない ・ 5. 全く思わない

問3 その他

今後、四国遍路に期待すること(要望など)があれば自由に書いてください。

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

Shikoku 88 Temple Pilgrimage Survey

We would like to ask Shikoku Pilgrims (or visitor) to answer this questionnaire. It takes about 10 minutes.

This survey is aimed at obtaining baseline information for designing and evaluating measures to attract foreign pilgrims by assessing trends in foreign preferences.

This result will be utilized for a research paper on cultural policy.

Your cooperation would be highly appreciated.

NATIONAL GRADUATE INSTITUTE For POLICY STUDIES (GRIPS)
Public Policy Program (Cultural Policy Concentration)
Tomoya Takahashi (Tokushima Prefectural Office)

Q1 Please tell me about you.

1-1 Pilgrim (Visitor)

① Are you male or female? (SA: Single Answer)

Male / Female

② How old are you? (SA)

10~19 / 20~29 / 30~39 / 40~49 / 50~59 / 60~69 / 70~

③ Where are you from? (ex. France)

④ How many times have you come on Shikoku Pilgrimage? (SA)

Once / 2 times / 3 times / 4 times / More than 5 times (times)

⑤ How did you come here? (about Shikoku Pilgrimage) (MA: Multiple Answer)

1. By walking 2. By bus tour 3. By car 4. By bike 5. By bicycle
6. By taxi 7. By bus 8. By train 9. By others ()

⑥ Do you go on 88 temple at once? (SA)

1. Yes (about 40 days and more) 2. No (a few times)

⑦ Have you visited other cultural heritage sites? (each SA)

Santiago de Compostela	Have visited / Plan to visit / Not plan yet / I didn't know that
Kumano Kodo	Have visited / Plan to visit / Not plan yet / I didn't know that
Saigoku 33 Kannon Pilgrimage	Have visited / Plan to visit / Not plan yet / I didn't know that
Shōdoshima 88 Temple Pilgrimage	Have visited / Plan to visit / Not plan yet / I didn't know that

1-2 Information gathering

① How did you hear about Shikoku Pilgrimage? (MA)

1. TV	2. Radio	3. Website	4. Blog
5. SNS (Facebook / twitter / Instagram / Youtube / Others ())			
6. Newspaper		7. Magazine	
8. Book (Experience / History or Culture / Self-help / Others())			
9. Travel advertisement		10. From a friend or family	
11. Event (Seminar / Exposition / Photo exhibition / Others())			
12. Others ()			

② What information do you feel you need during the pilgrimage (visit)? (MA)

1. Temple (manners / Explanation of cultural values (history, etc.) / Tales of Kobo Daishi / Buddhist experience / Others())	
2. Pilgrimage road (Route / Travel time / Route sign / Explanation of cultural values Tales of Kobo Daishi / The scenery of each season / Others())	
3. Pilgrim's lodging (Place / Charges / Reception time / Reservation / Cancellation / Meal / Bath / Laundry / Baggage delivery / Others())	
4. Henro Culture (Buddhism / Historical reasons / Meaning / View of life and death / Others())	
5. Sightseeing (Facility / Photo spot / Beautiful nature / Meal / Hot springs / Others())	
6. その他 ()	

1-3 The purpose of the pilgrimage (visit)

What is the purpose of the pilgrimage (visit)? (MA)

1. Memorial service	2. Faith	3. Prayer
4. Mental training (face myself)	5. Rite of passage (Turning point in life)	
6. Feel nature	7. Be interested in culture or history	
8. Interaction with locals	9. Sightseeing	
10. Health	11. Others ()	

Q2 Please select an applicable answer about Shikoku Pilgrimage.

2-1 Temple (SA)

① I was able to understand the cultural values of the cultural heritage.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

② I wanted to know about cultural heritage other than the Shikoku 88 sites.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

③ I was able to experience the Henro culture through reading, meditation, and stories.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

④ I want to pass on cultural heritage including temples to the next generation by volunteers and donations.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

2-2 Pilgrimage road (SA)

① I felt the charm of the old road that left the atmosphere of that time.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

② If you have a tour of the old road, I would like to participate.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

③ In addition to the old roads, I felt fascinated by the scenery and cityscape where I could feel the lives of local residents.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

④ I was able to learn the pilgrimage culture from cultural assets such as cobblestones and signposts that remain on the pilgrimage road.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

⑤ I was able to pilgrimage without hesitation by the signposts on the pilgrimage road.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

⑥ I want to pass on cultural pilgrimage road to the next generation by volunteers and donations.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

2-3 Others (SA)

① I felt fascinated by a slow pilgrimage in a quiet environment.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

② I felt “feeling of gratitude” and “healing” through the treat of local residents.
(It says “O-Settai”.)

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

③ I think the activities of local residents who support temples, pilgrimage roads,
and O-Settai are important.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

④ Through interaction with local residents and pilgrims, I found my own meaning
in Shikoku Pilgrimage.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

⑤ I would like as many people as possible to know about Shikoku Pilgrimage
through World Heritage registration.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

⑥ I would also like to make a pilgrimage to “Shikoku 88 temple”.

1. Strongly agree / 2. Agree / 3. Neutral / 4. Disagree • 5. Strongly disagree

Q3 Others

If you have any other comments or opinions about Shikoku Pilgrimage,
please describe in below form. We will read this carefully.

Thank you for cooperating with the survey.

4 / 4

(4) 本結果の有効回答数

本調査の回答状況などは次のとおりである。(別表 13)

回答依頼数 487 件のうち、回収数が 179 件、拒否数が 308 件であった。回収数のうち、回答欄が空白のものが 6 件あったことから、有効回答数を 173 件（有効回答率：35.5%）とした。なお、母集団を 5.5 万人（2018 年の巡礼者数）、誤差を 5%、信頼度を 95%とする場合、統計上必要となるサンプルサイズは 382 件となるが、本研究では一定の成果を見出すために 173 件のサンプルで研究を進めた。

別表 13 アンケート調査の回答状況

	11/14 (木)	11/15 (金)	11/16 (土)	11/17 (日)	11/18 (月)	11/19 (火)	11/20 (水)	合 計
天 候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ時々 雨	晴れ	晴れ	—
平均気温(℃)	15.7	11.8	12.7	15.3	19.7	13.5	11.7	—
日降水量(mm)	0	0	0	0	11	0	0	—
依頼数	72	64	118	120	15	44	54	487
回収数	38	27	44	36	4	9	21	179
拒否数	34	37	74	84	11	35	33	308
有効回答数	38	27	40	35	3	9	21	173
有効回答率	52.8%	42.2%	33.9%	29.2%	20.0%	20.5%	38.9%	35.5%

(5) 調査結果

本調査の結果は次のとおりである。

属性項目（別表 14 から別表 40 まで）

別表 14 性別

	男 性	女 性
日本人 (165)	55.2% (91)	45.5% (75)
外国人 (8)	62.5% (5)	37.5% (3)
合 計	55.5% (96)	44.5% (77)

別表 15 年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
日本人 (165)	0.6% (1)	1.8% (3)	8.5% (14)	10.3% (17)	20.0% (33)	40.6% (67)	18.2% (30)
外国人 (8)	0.0% (0)	25.0% (2)	25.0% (2)	12.5% (1)	12.5% (1)	12.5% (1)	12.5% (1)
合 計	0.6% (1)	2.9% (5)	9.2% (16)	10.4% (18)	19.7% (34)	39.3% (68)	17.9% (31)

別表 16 居住地（地方別）

北海道 地方	東北 地方	関東 地方	中部 地方	近畿 地方	中国 地方	四国 地方	九州・沖縄 地方	海外	合計
0.0%	7.5%	13.3%	10.4%	20.2%	11.0%	26.6%	6.4%	4.6%	100.0%
(0)	(13)	(23)	(18)	(35)	(19)	(46)	(11)	(8)	(173)

別表 17 居住地（東北地方）

東北 地方	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
7.5%	0.6%	0.0%	1.2%	2.9%	1.7%	1.2%
(13)	(1)	(0)	(2)	(5)	(3)	(2)

別表 18 居住地（関東地方）

関東 地方	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
13.3%	1.2%	0.0%	1.7%	0.6%	1.2%	2.9%	5.8%
(23)	(2)	(0)	(3)	(1)	(2)	(5)	(10)

別表 19 居住地（中部地方）

中部 地方	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県
10.4%	1.2%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.6%	0.6%	6.9%
(18)	(2)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	(1)	(1)	(12)

別表 20 居住地（近畿地方）

近畿 地方	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
20.2%	1.2%	0.6%	0.0%	8.1%	6.9%	2.9%	0.6%
(35)	(2)	(1)	(0)	(14)	(12)	(5)	(1)

別表 21 居住地（中国地方）

中国 地方	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
11.0%	0.6%	0.0%	6.4%	2.9%	1.2%
(19)	(1)	(0)	(11)	(5)	(2)

別表 22 居住地（四国地方）

四国 地方	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
26.6% (46)	12.7% (22)	5.8% (10)	6.4% (11)	1.7% (3)

別表 23 居住地（九州・沖縄地方）

九州・沖縄 地方	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
6.4% (11)	2.9% (5)	0.0% (0)	0.0% (0)	1.2% (2)	0.6% (1)	0.0% (0)	1.7% (3)	0.0% (0)

別表 24 居住地（海外）

海 外	香港	台湾	オースト ラリア	アメリカ 合衆国	カナダ	スペイン
4.6% (8)	0.6% (1)	1.2% (2)	1.2% (2)	0.6% (1)	0.6% (1)	0.6% (1)

別表 25 遍路回数

	1回目	2回目	3～4回目	5～6回目	7～9回目	10回目以上
日本人 (165)	63.0% (104)	15.2% (25)	4.2% (7)	4.8% (8)	3.6% (6)	9.1% (15)
外国人 (8)	87.5% (7)	0.0% (0)	12.5% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	64.2% (111)	14.5% (25)	4.6% (8)	4.6% (8)	3.5% (6)	8.7% (15)

別表 26 交通手段（複数回答）

	徒 歩	団体バス	自家用車	バイク	自転車	タクシー	公共交通 バス	鉄 道	その他
日本人 (165)	18.8% (31)	11.5% (19)	67.3% (111)	1.2% (2)	5.5% (9)	5.5% (9)	5.5% (9)	13.9% (23)	6.1% (10)
外国人 (8)	87.5% (7)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	12.5% (1)	87.5% (7)	12.5% (1)
合 計	22.0% (38)	11.0% (19)	64.2% (111)	1.2% (2)	5.2% (9)	5.2% (9)	5.8% (10)	17.3% (30)	6.4% (11)

別表 27 巡礼予定

	通し打ち	区切り打ち
日本人 (165)	11.5% (19)	88.5% (146)
外国人 (8)	12.5% (1)	87.5% (7)
合 計	11.6% (20)	88.4% (153)

別表 28 他の文化遺産への巡礼の有無 (サンティアゴ・デ・コンポステーラ)

	巡礼済み	巡礼予定	巡礼予定なし	知らない
日本人 (165)	0.6% (1)	0.6% (1)	30.3% (50)	68.5% (113)
外国人 (8)	37.5% (3)	12.5% (1)	37.5% (3)	12.5% (1)
合 計	2.3% (4)	1.2% (2)	30.6% (53)	65.9% (114)

別表 29 他の文化遺産への巡礼の有無 (熊野古道)

	巡礼済み	巡礼予定	巡礼予定なし	知らない
日本人 (165)	20.6% (34)	16.4% (27)	37.0% (61)	26.1% (43)
外国人 (8)	37.5% (3)	0.0% (0)	25.0% (2)	37.5% (3)
合 計	21.4% (37)	15.6% (27)	36.4% (63)	26.6% (16)

別表 30 他の文化遺産への巡礼の有無 (西国三十三所観音霊場)

	巡礼済み	巡礼予定	巡礼予定なし	知らない
日本人 (165)	21.2% (35)	10.9% (18)	40.0% (66)	27.9% (46)
外国人 (8)	0.0% (0)	0.0% (0)	12.5% (1)	87.5% (7)
合 計	20.2% (35)	10.4% (18)	38.7% (67)	30.6% (53)

別表 31 他の文化遺産への巡礼の有無 (小豆島八十八箇所霊場)

	巡礼済み	巡礼予定	巡礼予定なし	知らない
日本人 (165)	4.8% (8)	6.7% (11)	46.7% (77)	41.8% (69)
外国人 (8)	12.5% (1)	0.0% (0)	12.5% (1)	75.0% (6)
合 計	5.2% (9)	6.4% (11)	45.1% (78)	43.4% (75)

別表 32 巡礼のきっかけ（複数回答）

	テレビ	ラジオ	ホームページ	ブログ	SNS	新聞
日本人 (165)	24.2% (40)	0.0% (0)	4.8% (8)	3.6% (6)	2.4% (4)	3.6% (6)
外国人 (8)	12.5% (1)	0.0% (0)	37.5% (3)	12.5% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)
合計	23.7% (41)	0.0% (0)	6.4% (11)	4.0% (7)	2.3% (4)	3.5% (6)

	雑誌等	書籍	旅行広告	知人等の紹介	イベント	その他
日本人 (165)	9.1% (15)	15.8% (26)	7.9% (13)	46.1% (76)	1.2% (2)	20.6% (34)
外国人 (8)	0.0% (0)	12.5% (1)	0.0% (0)	75.0% (6)	0.0% (0)	0.0% (0)
合計	8.7% (15)	15.6% (27)	7.5% (13)	47.4% (82)	1.2% (2)	19.7% (34)

別表 33 巡礼中に必要と感じた情報（複数回答）

	寺院	遍路道	宿坊	遍路文化	観光	その他
日本人 (165)	71.5% (118)	72.1% (119)	42.4% (70)	57.6% (95)	54.5% (90)	6.7% (11)
外国人 (8)	62.5% (5)	75.0% (6)	75.0% (6)	50.0% (4)	75.0% (6)	0.0% (0)
合計	71.1% (123)	72.3% (125)	43.9% (76)	57.2% (99)	55.5% (96)	6.4% (11)

別表 34 巡礼中に必要と感じた寺院情報（複数回答）

	礼拝作法	文化的価値	弘法大師の 逸話・伝承	仏教体験の 内容・参加方法	その他	内訳未記入
日本人 (165)	36.4% (60)	29.1% (48)	28.5% (47)	6.1% (10)	0.6% (1)	11.5% (19)
外国人 (8)	25.0% (2)	37.5% (3)	25.0% (2)	37.5% (3)	0.0% (0)	12.5% (1)
合計	35.8% (62)	29.5% (51)	28.3% (49)	7.5% (13)	0.6% (1)	11.6% (20)

別表 35 巡礼中に必要と感じた遍路道情報（複数回答）

	経路	所要時間	案内説明	文化的価値
日本人 (165)	47.3% (78)	40.0% (66)	29.1% (48)	26.7% (44)
外国人 (8)	25.0% (2)	50.0% (4)	37.5% (3)	62.5% (5)
合計	46.2% (80)	40.5% (70)	29.5% (51)	28.3% (49)
	弘法大師の 逸話・伝承	四季の景観	その他	内訳未記入
日本人 (165)	21.8% (36)	23.0% (38)	2.4% (4)	10.9% (18)
外国人 (8)	37.5% (3)	37.5% (3)	0.0% (0)	25.0% (2)
合計	22.5% (39)	23.7% (41)	2.3% (4)	11.6% (20)

別表 36 巡礼中に必要と感じた宿坊情報（複数回答）

	場所	料金	受付時間	予約	キャンセル	食事
日本人 (165)	29.1% (48)	27.3% (45)	12.1% (20)	15.8% (26)	8.5% (14)	12.7% (21)
外国人 (8)	75.0% (6)	37.5% (3)	37.5% (3)	37.5% (3)	25.0% (2)	25.0% (2)
合計	31.2% (54)	27.7% (48)	13.3% (23)	16.8% (29)	9.2% (16)	13.3% (23)
	風呂	洗濯	荷物配送	その他	内訳未記入	
日本人 (165)	13.3% (22)	12.7% (21)	9.7% (16)	3.0% (5)	7.9% (13)	
外国人 (8)	25.0% (2)	12.5% (1)	37.5% (3)	12.5% (1)	12.5% (1)	
合計	13.9% (24)	12.7% (22)	11.0% (19)	3.5% (6)	8.1% (14)	

別表 37 巡礼中に必要と感じた遍路文化情報（複数回答）

	仏教	歴史的経緯	巡礼の意義	死生観	その他	内訳未記入
日本人 (165)	26.7% (44)	29.7% (49)	38.2% (63)	19.4% (32)	0.0% (0)	8.5% (14)
外国人 (8)	25.0% (2)	37.5% (3)	37.5% (3)	25.0% (2)	0.0% (0)	12.5% (1)
合計	26.6% (46)	30.1% (52)	38.2% (66)	19.7% (34)	0% (0)	8.7% (15)

別表 38 巡礼中に必要と感じた観光情報（複数回答）

	観光施設	写真 スポット	自然	料理	温泉	その他	内訳未記入
日本人 (165)	20.0% (33)	11.5% (19)	22.4% (37)	24.8% (41)	15.8% (26)	0.0% (0)	5.5% (9)
外国人 (8)	0.0% (0)	12.5% (1)	12.5% (1)	50.0% (4)	12.5% (1)	0.0% (0)	25.0% (2)
合計	19.1% (33)	11.6% (20)	22.0% (38)	26.0% (45)	15.6% (27)	0.0% (0)	6.4% (11)

別表 39 巡礼中に必要と感じたその他情報（複数回答）

	トイレ	その他
日本人 (165)	2.4% (4)	4.2% (7)
外国人 (8)	0.0% (0)	0.0% (0)
合計	2.3% (4)	4.0% (7)

別表 40 巡礼の目的（複数回答）

	先祖・故人 の供養	信 仰	祈 願 (大願成就)	精神修養	通過儀礼	自然の体感
日本人 (165)	40.0% (66)	21.2% (35)	41.2% (68)	47.3% (78)	17.6% (29)	27.9% (46)
外国人 (8)	25.0% (2)	37.5% (3)	25.0% (2)	87.5% (7)	12.5% (1)	87.5% (7)
合 計	39.3% (68)	22.0% (38)	40.5% (70)	49.1% (85)	17.3% (30)	30.6% (53)

	歴史・文化 への興味	人との交流	観 光	健康の促進	その他
日本人 (165)	29.7% (49)	16.4% (27)	24.8% (41)	29.1% (48)	3.0% (5)
外国人 (8)	37.5% (3)	62.5% (5)	50.0% (4)	37.5% (3)	12.5% (1)
合 計	30.1% (52)	18.5% (32)	26.0% (45)	29.5% (51)	3.5% (6)

意識項目（別表 41 から別表 56 まで）

別表 41 「寺院を構成する文化遺産の文化的価値（歴史など）を理解することができた」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	27.9% (46)	59.4% (98)	10.3% (17)	2.4% (4)	0.0% (0)
外国人 (8)	12.5% (1)	37.5% (3)	25.0% (2)	25.0% (2)	0.0% (0)
合 計	27.2% (47)	58.4% (101)	11.0% (19)	3.5% (6)	0.0% (0)

別表 42 「四国八十八ヶ所霊場以外の文化遺産についても知りたいと思った」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	21.2% (35)	55.8% (92)	19.4% (32)	3.6% (6)	0.0% (0)
外国人 (8)	25.0% (2)	37.5% (3)	25.0% (2)	12.5% (1)	0.0% (0)
合 計	21.4% (37)	54.9% (95)	19.7% (34)	4.0% (7)	0.0% (0)

別表 43 「読経や瞑想、法話などにより、遍路文化を体感することができた」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	21.2% (35)	55.2% (91)	20.0% (33)	3.0% (5)	0.6% (1)
外国人 (8)	0.0% (0)	75.0% (6)	25.0% (2)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	20.2% (35)	56.1% (97)	20.2% (35)	2.9% (5)	0.6% (1)

別表 44 「ボランティアや寄付などにより、寺院を含む文化遺産を次世代に継承したい」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	26.7% (44)	61.8% (102)	9.7% (16)	1.8% (3)	0.0% (0)
外国人 (8)	0.0% (0)	50.0% (4)	37.5% (3)	12.5% (1)	0.0% (0)
合 計	25.4% (44)	61.3% (106)	11.0% (19)	2.3% (4)	0.0% (0)

別表 45 「当時の雰囲気を残す古道に魅力を感じた」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	30.3% (50)	57.6% (95)	9.1% (15)	3.0% (5)	0.0% (0)
外国人 (8)	50.0% (4)	37.5% (3)	0.0% (0)	0.0% (0)	12.5% (1)
合 計	31.2% (54)	56.6% (98)	8.7% (15)	2.9% (5)	0.6% (1)

別表 46 「古道を散策するツアーがあれば、参加してみたい」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	15.2% (25)	44.2% (73)	28.5% (47)	10.3% (17)	1.8% (3)
外国人 (8)	37.5% (3)	50.0% (4)	0.0% (0)	12.5% (1)	0.0% (0)
合 計	16.2% (28)	44.5% (77)	27.2% (47)	10.4% (18)	1.7% (3)

別表 47 「古道以外にも、地域住民の生活が感じられる風景や街並みに魅力を感じた」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	17.0% (28)	58.8% (97)	21.2% (35)	3.0% (5)	0.0% (0)
外国人 (8)	50.0% (4)	37.5% (3)	12.5% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	18.5% (32)	57.8% (100)	20.8% (36)	2.9% (5)	0.0% (0)

別表 48 「遍路道に残る丁石や道標などの文化資産から、遍路文化を学ぶことができた」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	19.4% (32)	60.6% (100)	18.2% (30)	1.8% (3)	0.0% (0)
外国人 (8)	12.5% (1)	37.5% (3)	37.5% (3)	12.5% (1)	0.0% (0)
合 計	19.1% (33)	59.5% (103)	19.1% (33)	2.3% (4)	0.0% (0)

別表 49 「遍路道にある道標などにより、迷うことなく巡礼できた」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	13.9% (23)	28.8% (97)	20.0% (33)	6.7% (11)	0.6% (1)
外国人 (8)	0.0% (0)	25.0% (2)	25.0% (2)	37.5% (3)	12.5% (1)
合 計	13.3% (23)	57.2% (99)	20.2% (35)	8.1% (14)	1.2% (2)

別表 50 「ボランティアや寄付などにより、遍路道を次世代に継承したい」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	27.9% (46)	59.4% (98)	11.5% (19)	1.2% (2)	0.0% (0)
外国人 (8)	25.0% (2)	37.5% (3)	25.0% (2)	12.5% (1)	0.0% (0)
合 計	27.7% (48)	58.4% (101)	12.1% (21)	1.7% (3)	0.0% (0)

別表 51 「静かな環境のなか、ゆっくりと巡礼することに魅力を感じた」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	49.7% (83)	46.1% (76)	4.2% (7)	0.0% (0)	0.0% (0)
外国人 (8)	50.0% (4)	50.0% (4)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	49.7% (86)	46.2% (80)	4.0% (7)	0.0% (0)	0.0% (0)

別表 52 「地域住民のお接待などにより、「感謝の心」や「癒し」を感じた」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	33.9% (56)	49.1% (81)	14.5% (24)	2.4% (4)	0.0% (0)
外国人 (8)	87.5% (7)	12.5% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	36.4% (63)	47.4% (82)	13.9% (24)	2.3% (4)	0.0% (0)

別表 53 「寺院や遍路道、お接待などを支える地域住民等の活動が大切であると思う」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	37.0% (61)	57.0% (94)	5.5% (9)	0.6% (1)	0.0% (0)
外国人 (8)	87.5% (7)	12.5% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	39.3% (68)	54.9% (95)	5.2% (9)	0.6% (1)	0.0% (0)

別表 54 「地域住民や巡礼者との交流により、四国遍路に自分なりの意味を見出した」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	21.8% (36)	57.0% (94)	20.0% (33)	1.2% (2)	0.0% (0)
外国人 (8)	25.0% (2)	75.0% (6)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	22.0% (38)	57.8% (100)	19.1% (33)	1.2% (2)	0.0% (0)

別表 55 「世界遺産登録などにより、少しでも多くの人に四国遍路を知ってほしい」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	44.8% (74)	44.8% (74)	8.5% (14)	1.2% (2)	0.6% (1)
外国人 (8)	50.0% (4)	25.0% (2)	25.0% (2)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	45.1% (78)	43.9% (76)	9.2% (16)	1.2% (2)	0.6% (1)

別表 56 「また「四国八十八箇所霊場と遍路道」を巡礼したい」に対する意識

	とても思う	思 う	どちらでもない	思わない	全く思わない
日本人 (165)	44.2% (73)	47.9% (79)	7.3% (12)	0.6% (1)	0.0% (0)
外国人 (8)	75.0% (6)	25.0% (2)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)
合 計	45.7% (79)	46.8% (81)	6.9% (12)	0.6% (1)	0.0% (0)

資料5 ピアソンの積率相関分析

(1) 居住地からの距離との相関分析

巡礼者の「居住地から寺院までの距離」と「新規顧客数」または「リピーター数」との相関分析にあたり、居住地の県庁所在地から徳島県の県庁所在地までの距離を居住地からの距離として利用した。距離データは、国土交通省国土地理院が公表する「都道府県庁間の距離」を使用した。(別表57及び別図7)

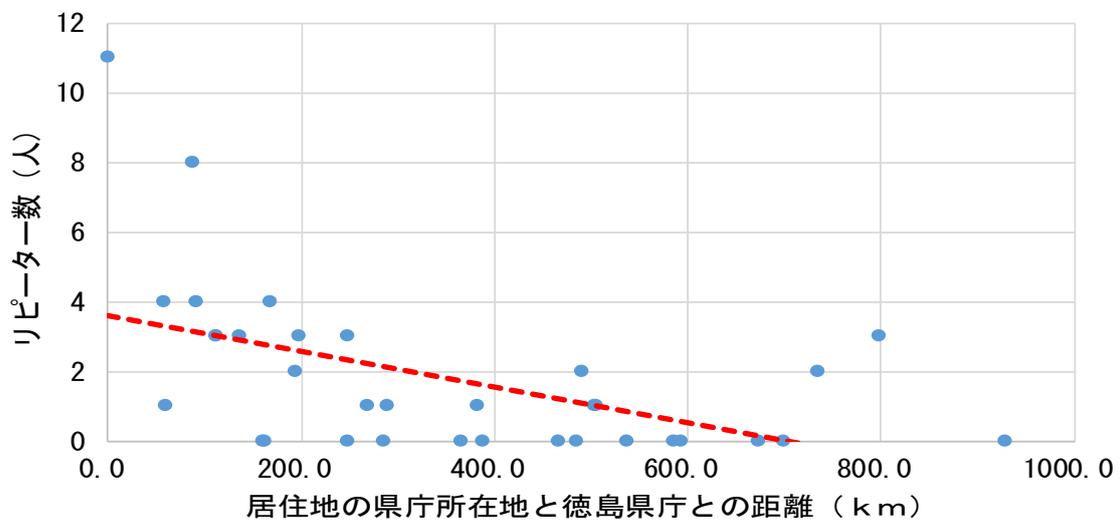
また、海外からの巡礼者については、サンプル数が極めて少なく、居住地からの距離が非常に長くなることから、外れ値として除外した。

別表57 「居住地からの距離」と「新規顧客数」または「リピーター数」との関係

居住地	都道府県庁間の距離 (km)	回答者数 (人)	新規顧客数 (人)	リピーター数 (人)
北海道	1159.9	0	0	0
青森県	927.8	1	1	0
岩手県	857.9	0	0	0
宮城県	734.6	2	0	2
秋田県	798.2	5	2	3
山形県	697.8	3	3	0
福島県	671.7	2	2	0
茨城県	592.4	2	2	0
栃木県	557.8	0	0	0
群馬県	484.1	3	3	0
埼玉県	505.4	1	0	1
千葉県	536.7	2	2	0
東京都	502.5	5	4	1
神奈川県	489.9	10	8	2
新潟県	585.7	2	2	0
富山県	378.3	0	0	0
石川県	337.6	0	0	0
福井県	268.7	2	1	1
山梨県	407.1	0	0	0
長野県	436.6	0	0	0
岐阜県	246.7	1	1	0
静岡県	365.3	1	1	0
愛知県	248.2	12	9	3
三重県	193.8	2	0	2
滋賀県	159.0	1	1	0
京都府	152.6	0	0	0
大阪府	112.0	14	11	3
兵庫県	90.0	12	8	4
奈良県	135.8	5	2	3
和歌山県	58.8	1	0	1

鳥取県	162.2	1	1	0
島根県	208.4	0	0	0
岡山県	87.6	11	3	8
広島県	196.9	5	2	3
山口県	285.2	2	2	0
徳島県	0.0	22	11	11
香川県	56.5	10	6	4
愛媛県	167.6	11	7	4
高知県	110.5	3	0	3
福岡県	386.7	5	5	0
佐賀県	405.4	0	0	0
長崎県	460.2	0	0	0
熊本県	382.2	2	1	1
大分県	288.4	1	0	1
宮崎県	378.1	0	0	0
鹿児島県	466.4	3	3	0
沖縄県	1093.4	0	0	0
合計	—	165	104	61

(出典：「都道府県庁間の距離」(国土地理院ウェブサイト <https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOH0/kenchokan.html>) から筆者作成)



別図7 「居住地から寺院までの距離」と「リピーター数」との相関関係

(2) 居住地からの距離との相関分析

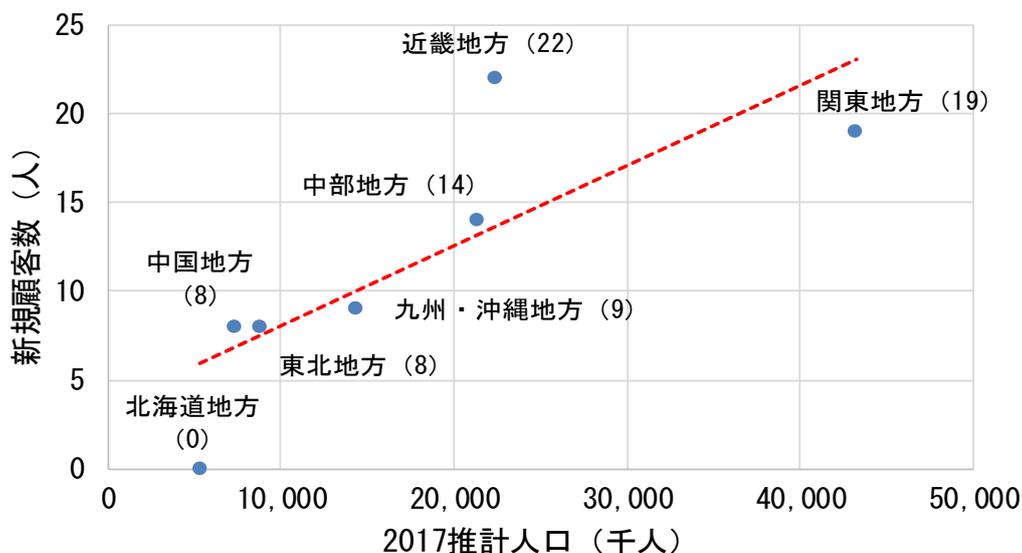
巡礼者の居住する「地方の人口」と「新規顧客数」または「リピーター数」との相関分析にあたり、人口の算出は「日本の統計 2019」（総務省統計局 2019）の都道府県別人口を利用した。（別表 58 及び別図 8）

また、四国地方及び海外は距離の影響が大きいと推測されるため、分析対象を四国地方以外の国内巡礼者に設定した。

別表 58 「居住する地方の人口」と「新規顧客数」または「リピーター数」との関係

居住地方	2017年推計人口 (千人)	回答者数 (人)	新規顧客数 (人)	リピーター数 (人)
北海道地方	5,320	0	0	0
東北地方	8,836	13	8	5
関東地方	43,248	23	19	4
中部地方	21,356	18	14	4
近畿地方	22,431	35	22	13
中国地方	7,369	19	8	11
四国地方	3,788	46	24	22
九州・沖縄地方	14,360	11	9	2
合計	126,708	165	104	61

(出典「日本の統計 2019」（総務省統計局 2019）から筆者作成)



別図 8 「地方の人口」と「新規顧客数」との相関関係

資料6 クロス集計による関連性の分析

本研究で分析したクロス集計は次のとおりである。(別表59から別表78まで)

なお、関連性の分析にあたり、コクランの規則から、期待度数が5未満のセルが分割表のセル全体の20%以上となる場合は、ピアソンの χ^2 検定ではなくフィッシャーの正確確率検定を行った。

別表59 「遍路回数」と「巡礼の目的(先祖・故人の供養)」とのクロス集計

巡礼者の属性	巡礼の目的(先祖・故人の供養)		合計
	目的とする	目的としない	
新規顧客(111) 〈調整済み残差〉	32.4%(36) 〈-2.5〉	67.6%(75) 〈2.5〉	100.0%(111)
リピーター(62) 〈調整済み残差〉	51.6%(32) 〈2.5〉	48.4%(30) 〈-2.5〉	100.0%(62)
全体(173)	39.3%(68)	60.7%(105)	100.0%(173)

p<0.05、Cramer's V=0.19

別表60 「年齢(40代以下、50代以上)」と「巡礼の目的(自然の体感)」とのクロス集計

巡礼者の属性	巡礼の目的(自然の体感)		合計
	目的とする	目的としない	
40代以下(40) 〈調整済み残差〉	47.5%(19) 〈2.6〉	52.5%(21) 〈-2.6〉	100.0%(40)
50代以上(133) 〈調整済み残差〉	25.6%(34) 〈-2.6〉	74.4%(99) 〈2.6〉	100.0%(133)
全体(173)	30.6%(53)	69.4%(120)	100.0%(173)

p<0.01、Cramer's V=0.20

別表61 「年齢(40代以下、50代以上)」と「巡礼の目的(歴史・文化への興味)」とのクロス集計

巡礼者の属性	巡礼の目的(歴史・文化への興味)		合計
	目的とする	目的としない	
40代以下(40) 〈調整済み残差〉	47.5%(19) 〈2.7〉	52.5%(21) 〈-2.7〉	100.0%(40)
50代以上(133) 〈調整済み残差〉	24.8%(33) 〈-2.7〉	75.2%(100) 〈2.7〉	100.0%(133)
全体(173)	30.1%(52)	69.9%(121)	100.0%(173)

p<0.01、Cramer's V=0.21

別表 62 「年齢（40代以下、50代以上）」と「巡礼の目的（観光）」とのクロス集計

巡礼者の属性	巡礼の目的（観光）		合 計
	目的とする	目的としない	
40代以下（40） 〈調整済み残差〉	42.5%（17） 〈-2.7〉	57.5%（23） 〈-2.7〉	100.0%（40）
50代以上（133） 〈調整済み残差〉	21.1%（28） 〈-2.7〉	78.9%（105） 〈2.7〉	100.0%（133）
全 体（173）	26.0%（45）	74.0%（128）	100.0%（173）

p<0.01、Cramer's V=0.21

別表 63 「年齢（40代以下、50代以上）」と「寺院の文化的価値を理解できた」とのクロス集計

巡礼者の属性	寺院の文化的価値を理解できた		合 計
	肯定的 （「とても思う」または「思う」）	それ以外 （それ以外の回答）	
40代以下（40） 〈調整済み残差〉	75.0%（30） 〈-2.2〉	25.0%（10） 〈2.2〉	100.0%（40）
50代以上（133） 〈調整済み残差〉	88.7%（118） 〈2.2〉	11.3%（15） 〈-2.2〉	100.0%（133）
全 体（173）	85.5%（148）	14.5%（25）	100.0%（173）

p<0.05、Cramer's V=0.17

別表 64 「年齢（40代以下、50代以上）」と「寺院情報（仏教体験）」とのクロス集計

巡礼者の属性	寺院情報（仏教体験）		合 計
	必要とする	必要としない	
40代以下（40） 〈調整済み残差〉	20.0%（8） 〈3.4〉	80.0%（32） 〈-3.4〉	100.0%（40）
50代以上（133） 〈調整済み残差〉	3.8%（5） 〈-3.4〉	96.2%（128） 〈3.4〉	100.0%（133）
全 体（173）	7.5%（13）	92.5%（160）	100.0%（173）

* コ克兰の規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施（p<0.01）

別表 65 「年齢（40代以下、50代以上）」と「観光情報（全般）」とのクロス集計

巡礼者の属性	観光情報（全般）		合 計
	必要とする	必要としない	
40代以下（40） 〈調整済み残差〉	72.5%（29） 〈3.4〉	27.5%（11） 〈-3.4〉	100.0%（40）
50代以上（133） 〈調整済み残差〉	50.4%（67） 〈-3.4〉	49.6%（66） 〈3.4〉	100.0%（133）
全 体（173）	55.5%（96）	44.5%（77）	100.0%（173）

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施（ $p < 0.05$ ）

別表 66 「年齢（40代以下、50代以上）」と「観光情報（料理）」とのクロス集計

巡礼者の属性	観光情報（料理）		合 計
	必要とする	必要としない	
40代以下（40） 〈調整済み残差〉	40.0%（16） 〈2.3〉	60.0%（24） 〈-2.3〉	100.0%（40）
50代以上（133） 〈調整済み残差〉	21.8%（29） 〈-2.3〉	78.2%（104） 〈2.3〉	100.0%（133）
全 体（173）	26.0%（45）	74.0%（128）	100.0%（173）

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施（ $p < 0.05$ ）

別表 67 「寺院の文化的価値を理解できた」と「また巡礼したい」とのクロス集計

寺院の文化的価値 を理解できた	また巡礼したい		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	94.6%（140） 〈2.6〉	5.4%（8） 〈-2.6〉	100.0%（148）
それ以外 〈調整済み残差〉	80.0%（20） 〈-2.6〉	20.0%（5） 〈2.6〉	100.0%（25）
全 体（173）	92.5%（160）	7.5%（13）	100.0%（173）

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施（ $p < 0.05$ ）

別表 68 「他の文化遺産も知りたい」と「また巡礼したい」とのクロス集計

他の文化遺産も 知りたい	また巡礼したい		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	96.2% (127) 〈3.3〉	3.8% (5) 〈-3.3〉	100.0% (132)
それ以外 〈調整済み残差〉	80.5% (33) 〈-3.3〉	19.5% (8) 〈3.3〉	100.0% (41)
全 体 (173)	92.5% (160)	7.5% (13)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)

別表 69 「古道の散策ツアーに参加したい」と「また巡礼したい」とのクロス集計

古道の散策ツアー に参加したい	また巡礼したい		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	100.0% (105) 〈4.7〉	0.0% (0) 〈-4.7〉	100.0% (105)
それ以外 〈調整済み残差〉	80.9% (55) 〈-4.7〉	19.1% (13) 〈4.7〉	100.0% (68)
全 体 (173)	92.5% (160)	7.5% (13)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)

別表 70 「寺院の文化的価値を理解できた」と「寺院に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

寺院の文化的価値 を理解できた	寺院に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	89.2% (132) 〈2.3〉	10.8% (16) 〈-2.3〉	100.0% (148)
それ以外 〈調整済み残差〉	72.0% (18) 〈-2.3〉	28.0% (7) 〈2.3〉	100.0% (25)
全 体 (173)	86.7% (150)	13.3% (23)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.05)

別表 71 「寺院の文化的価値を理解できた」と「遍路道に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

寺院の文化的価値 を理解できた	遍路道に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	93.2% (138) 〈6.6〉	6.8% (10) 〈-6.6〉	100.0% (148)
それ以外 〈調整済み残差〉	44.0% (11) 〈-6.6〉	56.0% (14) 〈6.6〉	100.0% (25)
全 体 (173)	86.1% (149)	13.9% (24)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)

別表 72 「古道に魅力を感じた」と「寺院に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

古道に魅力を感じた	寺院に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	88.8% (135) 〈2.2〉	11.2% (17) 〈-2.3〉	100.0% (152)
それ以外 〈調整済み残差〉	71.4% (15) 〈-2.3〉	28.6% (6) 〈2.3〉	100.0% (21)
全 体 (173)	86.7% (150)	13.3% (23)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.05)

別表 73 「古道に魅力を感じた」と「遍路道に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

古道に魅力を感じた	遍路道に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	89.5% (136) 〈3.4〉	10.5% (16) 〈-6.6〉	100.0% (152)
それ以外 〈調整済み残差〉	61.9% (13) 〈-6.6〉	38.1% (8) 〈6.6〉	100.0% (21)
全 体 (173)	86.1% (149)	13.9% (24)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)

別表 74 「道標等により迷うことなく巡礼できた」と「寺院に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

道標等により迷うこと なく巡礼できた	寺院に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	90.2% (110) 〈2.1〉	9.8% (12) 〈-2.1〉	100.0% (122)
それ以外 〈調整済み残差〉	78.4% (40) 〈-2.1〉	21.6% (11) 〈2.1〉	100.0% (51)
全 体 (173)	86.7% (150)	13.3% (23)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.05)

別表 75 「道標等により迷うことなく巡礼できた」と「遍路道に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

道標等により迷うこと なく巡礼できた	遍路道に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	93.4% (114) 〈4.3〉	6.6% (8) 〈-4.3〉	100.0% (122)
それ以外 〈調整済み残差〉	68.6% (35) 〈-4.3〉	31.4% (16) 〈4.3〉	100.0% (51)
全 体 (173)	86.1% (149)	13.9% (24)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)

別表 76 「地域住民等の活動が大切と思う」と「寺院に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

地域住民等の活動 が大切と思う	寺院に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	89.0% (145) 〈3.5〉	11.0% (18) 〈-3.5〉	100.0% (163)
それ以外 〈調整済み残差〉	50.0% (5) 〈-3.5〉	50.0% (5) 〈3.5〉	100.0% (10)
全 体 (173)	86.7% (150)	13.3% (23)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)

別表 77 「地域住民等の活動が大切と思う」と「遍路道に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

地域住民等の活動 が大切と思う	遍路道に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	88.3% (144) 〈3.4〉	11.7% (19) 〈-3.4〉	100.0% (163)
それ以外 〈調整済み残差〉	50.0% (5) 〈-3.4〉	50.0% (5) 〈3.4〉	100.0% (10)
全 体 (173)	86.1% (149)	13.9% (24)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)

別表 78 「世界遺産登録等により魅力を発信したい」と「寺院に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

世界遺産登録等により 魅力を発信したい	寺院に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	90.3% (139) 〈3.9〉	9.7% (15) 〈-3.9〉	100.0% (154)
それ以外 〈調整済み残差〉	57.9% (11) 〈-3.9〉	42.1% (8) 〈3.9〉	100.0% (19)
全 体 (173)	86.7% (150)	13.3% (23)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)

別表 79 「世界遺産登録等により魅力を発信したい」と「遍路道に対するボランティアや寄付の意向」とのクロス集計

世界遺産登録等により 魅力を発信したい	遍路道に対するボランティアや寄付の意向		合 計
	肯定的	それ以外	
肯定的 〈調整済み残差〉	90.3% (139) 〈4.5〉	9.7% (15) 〈-4.5〉	100.0% (154)
それ以外 〈調整済み残差〉	52.6% (10) 〈-4.5〉	47.4% (9) 〈4.5〉	100.0% (19)
全 体 (173)	86.1% (149)	13.9% (24)	100.0% (173)

* コクランの規則のため、フィッシャーの正確確率検定を実施 (p<0.01)